

学校法人野上学園

ブレーメン動物専門学校



2025年度

年間授業計画（シラバス）

別表1 ペットビジネス学科

1年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
生命倫理・動物福祉	○	30	○
動物形態機能学	○	120	○
動物繁殖学	○	30	○
動物行動学	○	30	○
動物栄養学	○	60	○
公衆衛生学	○	60	○
愛玩動物学	○	60	○
人と動物の関係学	○	30	○
グルーミング学Ⅰ	○	30	○
グルーミング実習Ⅰ	○	90	○
ドッグトレーニング理論Ⅰ	○	30	○
総合トレーニング実習Ⅰ	○	90	○
飼育管理学Ⅰ	○	30	○
動物飼育実習Ⅰ	○	90	○
動物保護学概論	○	30	○
動物福祉学Ⅰ	○	30	○
動物保全学Ⅰ	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
必須受講時間	900		
犬種別ペットクリップⅠ	△	90	○
ハンドリング学Ⅰ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅰ	△	60	○
動物薬理学	△	60	○
動物生活環境学	△	30	○
動物臨床検査学	△	30	○
動物臨床検査学実習	△	60	○
服従訓練Ⅰ	△	90	○
アジリティⅠ	△	90	○
動物園学Ⅰ	△	30	○
生物分類学Ⅰ	△	30	○
動物展示学・実習Ⅰ	△	120	○
必須受講時間	180		
合 計	1080		

2年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
動物病理学	○	30	○
適正飼養指導論	○	60	○
動物看護関連法規	○	15	○
動物愛護・適正飼養関連法規	○	15	○
比較動物学	○	60	○
動物感染症学	○	90	○
動物愛護・適正飼養実習	○	60	○
ペット関連産業概論	○	30	○
グルーミング学Ⅱ	○	30	○
ドッグトレーニング理論Ⅱ	○	30	○
飼育管理学Ⅱ	○	30	○
動物福祉学Ⅱ	○	30	○
動物保全学Ⅱ	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
必須受講時間		540	
グルーミング実習Ⅱ	△	180	○
犬種別ショークリップⅠ	△	180	○
犬種別ペットクリップⅡ	△	120	○
ハンドリング学Ⅱ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅱ	△	30	○
総合トレーニング実習Ⅱ	△	180	○
服従訓練Ⅱ	△	180	○
アジリティⅡ	△	180	○
動物飼育実習Ⅱ	△	120	○
動物園学Ⅱ	△	30	○
生物分類学Ⅱ	△	30	○
動物展示学・実習Ⅱ	△	180	○
アニマルトレーニング実習	△	180	○
必須受講時間		540	
合 計		1080	

【実務経験のある教員による授業時数】

2年間合計 2160時間

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	生命倫理・動物福祉	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	生命倫理の概念 (考え方について、獣医療との関わりについて)
項目2	第4回～第7回	動物福祉の概念(福祉の意味、動物の福祉、5つの自由、世界と日本における近代および現代の動物愛護運動について)
項目3	第8回～第12回	動物福祉の歴史(「動物の権利」「動物福祉」思想や課題について、動物福祉の生理学的指標および行動的指標による評価法について、安楽死の考え方について)
項目4	第13回～第16回	愛玩動物の福祉(適正飼育と福祉上の問題、国内外の動物保護活動の現状と課題、飼育法規や殺処分問題・対策について)
項目5	第17回～第20回	愛玩動物の福祉(動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状・対策、災害時の対応)
項目6	第21回～第24回	産業動物の福祉(福祉上の問題、国際的な福祉基準、産業動物の福祉を向上させるための具体的方法)
項目7	第25回～第27回	実験動物の福祉(福祉上の問題、3Rの概念と具体的方法)
項目8	第28回～第30回	展示動物の福祉(福祉上の問題、環境エンリッチメントの種類と内容)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は実験施設、動物園、豚舎において動物福祉を意識した飼育の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物形態機能学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単位

講義概要:
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
到達目標:
正常な動物の様々な部分の形態を知り、機能や薬物の作用などの基礎を身に付け、異常との違いに気付くことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	生命の基本構造 (細胞、組織、遺伝子、生体を構成する要素、体液、電解質、血漿タンパク質、細胞成分、血液成分、など)
項目2	第9回～第16回	骨格 (各骨格の位置、椎骨式、生体の位置と方向を表す用語、名称、基本構造、機能、骨膜、骨髓、関節、韧带、関節包、半月板、捻挫、脱臼、血中Ca濃度、リンの機能、骨の成長、など)
項目3	第17回～第24回	筋肉(分類と役割)
項目4	第25回～第32回	皮膚 (構造、生理学、グルーミングの重要性、犬猫が皮膚病になりやすい理由、アレルギー性皮膚炎、皮膚真菌症、など)
項目5	第33回～第40回	血液系 (血液の成分、リンパ管系、リンパ節、胸管、胸腺、浮腫、造血、など)
項目6-1	第41回～第44回	循環器① (役割、体循環、肺循環、動脈と静脈、血圧と血流、血圧の変動、心臓・肺の構造と機能、心臓の働く仕組み、心電図、心音と血流の関係、主要な動脈・静脈系、など)
項目6-2	第45回～第48回	循環器② (僧帽弁閉鎖不全、フィラリア症、胎仔循環、心室中隔欠損症、動脈管開存症、門脈循環、肝門脈系、など)
項目7	第49回～第56回	呼吸器 (役割、鼻腔、喉頭、喉頭蓋、発声器、咽頭、気管、気管支、肺、脳構造、生理学、換気のしくみ、代表的疾患/呼吸困難、一般的な臨床症状、鼻汁、咳、軟口蓋過長、肺炎、気管虚脱/、など)
項目8	第57回～第64回	消化器 (構造、役割・働き、咀嚼、唾液腺、嚥下、誤嚥、各消化腺・分泌液/膵液、胆汁、腸液/、肝臓の働き、下痢と嘔吐、消化器系疾患でみられる症状、胃腸内異物、巨大食道症、肛門囊炎、など)
項目9	第65回～第72回	内分泌 (内分泌系の器官とホルモン、ホルモンの作用、特徴、疾患、など)
項目10	第73回～第80回	泌尿器 (泌尿器系の構造、役割、作用、特徴、腎不全他泌尿器系疾患、など)
項目11	第81回～第88回	神経 (構造、役割、神経細胞の興奮、神経系の分類、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系の二重支配、神経系の看護のポイント、問診とバイタルサイン、主な症状、検査、飼い主への指導、など)
項目12	第89回～第96回	生殖器 (構造、役割、雌雄の生殖器・副生殖器、精子、卵子、生殖器系ホルモン、避妊・去勢のメリット・デメリット、性周期、など) ※交配、妊娠、人工授精、妊娠動物のかんり、分娩、出産、帝王切開、新生仔管理、哺乳、等は繁殖学で行う。
項目13	第97回～第104回	感覚器 (視覚/眼球の構造、役割、眼神経、通光装置、複眼器の構造と役割、視覚の仕組み、眼疾患の一般症状/、聴覚/耳の構造、役割、平衡感覚とその仕組み、耳疾患の原因、耳垢の種類と感染症、など/、嗅覚/鼻の構造、役割、関わる神経、など/、味覚/舌の構造、役割、分泌腺、味蕾の分布、など)
項目14	第105回～第112回	ショック (原因、分類、アナフィラキシーショック、外毒素、内毒素、応急処置、など)
項目15	第113回～第120回	炎症(定義、主徴、など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物繁殖学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:
繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する
到達目標:
犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明出来る。繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることが出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	雄性生殖器 (オスの生殖器の構造、精子)
項目2	第3回～第4回	雌性生殖器 (メスの生殖器の構造、卵子)
項目3	第5回～第6回	ホルモン (性腺刺激ホルモン放出ホルモン、性腺刺激ホルモン(卵胞刺激ホルモン、卵胞ホルモン)、性ステロイドホルモン(アンドロゲン、エストロゲン、プロゲステロン)、その他のホルモン(オキシトシン、プロラクチン、人絨毛性性腺刺激ホルモン、妖馬血清性性腺刺激ホルモン、インヒビン、リラキシン、プロスタグランジン) 1) 性腺機能の調節に関与するホルモンの働き(卵胞刺激ホルモン(間質細胞刺激ホルモン、黄体形成ホルモン)) 2) 精子の形成 3) 性腺刺激ホルモンによる卵巣機能の調節(メス)
項目4	第7回～第8回	性周期 (発情周期、発情周期とホルモン、それぞれの動物の発情周期、犬の発情周期、猫の発情周期、性周期に影響を及ぼすホルモン以外の要因)
項目5	第9回～第10回	交配 (性成熟、生殖周期、卵巣周期、卵胞期、排卵、黄体期、誘起排卵動物、交配適期、交配適期を知るポイント)
項目6	第11回～第12回	妊娠 (受精から分娩まで、受精とは、精子の受精能獲得、卵子の成熟、受精、胚の発育、胎盤の形成、哺乳動物の胎盤の分類、内分泌器官としての胎盤の役割、妊娠の維持、妊娠診断)
項目7	第13回～第14回	分娩 (分娩発来兆候、子宮の変化、分娩発来の機構、母体側のホルモンの変化、分娩の経過、産褥、泌乳、新生子の生理、難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目8	第15回～第16回	新生仔管理 (出産直後、気道確保、授乳、身体検査、体重の変化、反応、温度、狼爪切除・断尾、先天性疾患、新生仔の人工保育)
項目9	第17回～第18回	遺伝子概論 (メンデルの一遺伝子雑種、不完全雄性、致死遺伝子、複対立遺伝子、二遺伝子雑種、性に関する遺伝、DNAとタンパク合成)
項目10	第19回～第20回	繁殖障害 (難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目11	第21回～第22回	疾患(メス) (メスの生殖器疾患(子宮蓄膿症とその看護、子宮粘液症、卵巣腫瘍、子宮の腫瘍))
項目12	第23回～第24回	疾患(オス) (オスの生殖器疾患(前立腺肥大とその看護、前立腺のう胞、前立腺腫瘍、停留精巣、精巣腫瘍))
項目13	第25回～第26回	猫 (ネコの繁殖生理、基本用語、生成熟、生殖に関わるホルモン、発情(特徴、発情周期、兆候)、犬と猫の生殖器の比較、雄・雌の生殖器、受精・着床、胎盤と胎膜、妊娠日数と母体、胎仔の変化、妊娠・妊娠診断法、分娩)
項目14	第27回～第28回	去勢・避妊手術について理解する
項目15	第29回～第30回	人工授精について理解する
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の繁殖や繁殖生理の研究経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 1年	科 目 名 動物行動学	教員氏名 桑内由子(実務経験あり)
	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単 位
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻		

講義概要:
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
到達目標:
犬猫において基本的な行動の意義または機序を説明出来る
犬猫に起こる主な問題行動を理解し、その行動に対しての対応が出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物行動学の基礎(4つの問い、生得的行動と学習行動、脳による行動制御)
項目2	第6回～第10回	個体維持行動(摂食・飲水・排泄・身繕い・護身行動)
項目3	第11回～第15回	発達過程と社会行動 (発達ステージと各時期の行動学的特徴、生殖行動、コミュニケーション行動、敵対行動と神話的行動)
項目4	第16回～第20回	学習理論(行動形成、馴化と感作、古典的条件付けとオペラント条件付け、学習に影響を与える因子)
項目5	第21回～第25回	問題行動(定義と要因、攻撃行動の種類と原因と治療法、恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法、不適切な排泄行動の原因と治療法、老齢性認知機能低下の原因と症状と対応)
項目6	第26回～第30回	行動治療と予防(行動診療の進め方、コンサルテーションの方法、行動修正法と環境修正法の種類と適応、薬物療法、問題行動予防、社会化教室)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物栄養学	膳棚つぐみ(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。
到達目標:
基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違いを理解し、適切な食事管理が出来る
疾患別の療法食の栄養特性を説明出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	基礎栄養(5大栄養素、栄養要求の種差、食性、嗜好、嗜好性、摂食行動)
項目2	第4回～第10回	基礎栄養(健康維持における栄養の持つ意味、栄養素の不足、過剰症)
項目3	第11回～第17回	栄養要求量(エネルギー要求量の意味と計算法、栄養基準、ライフステージごとの栄養管理)
項目4	第18回～第24回	フードと栄養指導(ペットフードの種類、分類、ラベル表示、中毒、与えてはいけないもの、栄養状態の評価法)
項目5	第25回～第31回	フードと栄養指導(肥満の弊害と減量プログラムの作成法)
項目6	第32回～第38回	疾患と栄養(疾患時の食餌療法、療法食の特徴や効果の理解)
項目7	第39回～第44回	強制給餌と経管・静脈栄養法(強制給餌の方法と注意点)
項目8	第45回～第50回	強制給餌と経管・静脈栄養法(経管栄養法の種類と特徴、方法)
項目9	第51回～第55回	強制給餌と経管・静脈栄養法(静脈栄養法の種類と特徴、方法)
項目10	第56回～第60回	強制給餌と経管・静脈栄養法(チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 動物看護師として動物医療現場での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	公衆衛生学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単位
講義概要：		
環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標：		
公衆衛生について基本的な理念を理解し、公衆衛生の基本を考え行動出来る。		
国内外問わず、動物の輸送時や受け入れの際の公衆衛生に関わる注意点を説明出来る。		
滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を説明出来る。		

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	公衆衛生概要 (公衆衛生学の目的、動物看護における重要性、動物看護と公衆衛生、公衆衛生学における動物看護の領域、関連した活動分野、公衆衛生行政の理解、国民衛生の動向、One Healthと獣医療の関係の理解)
項目2	第5回～第7回	環境衛生 (環境衛生の歴史・背景・現在の問題点、化学物質による健康障害の理解、放射線汚染と障害について、衛生動物による人や動物への被害と対策、動物の咬傷による人への健康障害、廃棄物の取り扱い、動物の健康管理の徹底、衛生観念、飼育方法指導、動物としての接し方、)
項目3	第8回～第10回	食品衛生 (食品の安全性、食品残留剤・ホルモン剤、畜産品検査、遺伝子組み換え食品、動物用食品の衛生、食品衛生管理手法HACCP、等)
項目4	第11回～第13回	食中毒(サルモネラ、腸管出血性大腸菌感染症、カンピロバクター腸炎の原因、感染経路、症状、予防)
項目5	第14回～第16回	疫学と疾病予防 (感染の成立、分布、発生原因、流行、疫学調査法、予防、人獣共通感染症とその対策)
項目6	第17回～第20回	感染症とは (微生物、人畜共通感染症、感染の形態(顕性感染、不顕性感染、潜伏期間、キャリアー、日和見感染、)感染経路(経口感染、経皮感染、経胎盤・経乳汁)
項目7	第21回～第23回	薬剤耐性菌 (MRSA/メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、PRSP/ペニシリン耐性肺炎球菌、VRE/バンコマイシン耐性腸球菌、MDRP/多剤耐性緑膿菌、等)
項目8	第24回～第26回	衛生行政と主な関連法規 (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、指定動物と指定感染症に関する法定検査、検査法、狂犬病予防法)
項目9	第27回～第30回	人獣共通感染症 (現状、新興・再興感染症の発生原因、伝播様式、予防対策、動物由来の主なズーノーシス(犬猫類、サル類、げっ歯類)、定義、スーノーシスを学ぶ意義)
項目10	第31回～第33回	院内感染とペットショップ内感染 (院内感染の予防対策、飼い主への日常的な指導(ワクチン接種、抗体検査、来院の際の事前連絡、家庭における管理、ズーノーシス)、待合室・診察室・入院室、ペットショップ感染の予防対策)
項目11	第34回～第37回	咬まれたり引っつかれたりして感染するズーノーシス(狂犬病、ネコ引っかき病、破傷風)の原因、感染経路、症状、予防
項目12	第38回～第41回	日常生活に関係の深いズーノーシス(トキソプラズマ症、皮膚糸状菌症、幼虫移行症、ヒト・イヌ糸状虫症、インフルエンザ、ノミ刺症、アニサキス症)の原因、感染経路、症状、予防
項目13	第42回～第45回	その他の代表的なズーノーシス (レプトスピラ症、オウム病、マダニ媒介疾患、エキノコッカス、ブルセラ症)
項目14	第46回～第49回	サルから感染するズーノーシス (細菌性赤痢、アメーバ赤痢、エボラ出血熱の原因、感染経路、症状、予防)
項目15	第50回～第53回	ウサギから感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫による皮膚炎、外傷性パストレラ、トキソプラズマ、細菌性皮膚炎、野兔病、サルモネラ、仮性結核の特徴、予防)
項目16	第54回～第57回	小型げっ歯類から感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫感染症、サルモネラ症、大腸菌症、カンピロバクター症、レプトスピラ症、小形糸状虫症、その他の特徴、予防、飼育管理)
項目17	第58回～第60回	感染症新法における4類感染症 (クリプトスポリジウム症、ヘリコバクター・ピロリ感染症、ウシ海綿状脳症の原因、感染経路、症状、予防)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は研究施設において衛生管理に従事した経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 1年	科 目 名 愛玩動物学	教員氏名 桑内由子(実務経験あり)
	授業時間数 60 時間/年	単 位 数 単 位
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻		

講義概要:
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する
到達目標:
愛玩動物について理解し、実行、説明することができる

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	歴史と品種(犬の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング)、猫の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング))
項目2	第6回～第10回	歴史と品種(代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態)
項目3	第11回～第14回	使役動物(使役動物の歴史と福祉、盲導犬・聴導犬・介助犬の歴史、現状、役割、育成、適性)
項目4	第15回～第18回	使役動物(災害補助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬などの種類と特徴、現状)
項目5	第19回～第23回	愛玩動物の飼養管理 (犬の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢、社会化訓練など)
項目6	第24回～第28回	愛玩動物の飼養管理 (猫の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目7	第29回～第30回	愛玩動物の飼養管理 (愛玩鳥の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目8	第31回～第40回	愛玩動物の飼養管理 (代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理など)
項目9	第41回～第45回	動物の基本的な取り扱い(安全に散歩・運動・ふれあいの意義)
項目10	第46回～第55回	動物の基本的な取り扱い(基本的グルーミング/シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)
項目11	第56回～第60回	動物の基本的な取り扱い(適切な飼養環境やストレスの緩和方法)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	人と動物の関係学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
その実態、課題等を含めて理解する。
到達目標:
HABIによる人間と動物にもたらす影響とその目的を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	人間と動物の関わり (動物の飼育・利用の歴史、欧米と日本の動物観、関わりの違い、動物の飼育と利用の現状)
項目2	第5回～第8回	人間の福祉と愛玩動物の関わり(動物虐待と対人暴力の連動性、多頭飼育崩壊、愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵、および人間の加齢に伴う飼養困難になる様々な事情への理解)
項目3	第9回～第12回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物との接触が人間に与える身体的、心理的影響)
項目4	第13回～第16回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(目的と内容)
項目5	第17回～第20回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性)
項目6	第21回～第25回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物病院や愛玩動物看護師の関わり)
項目7	第26回～第30回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物介在活動の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	グルーミング学I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
①グルーミングとは何か、グルーマーとしてのグルーマーの基本、基礎、身に着けておくべき知識を学ぶ。
②道具の正しい使い方、正しいお手入れの方法を学ぶ
③犬の体の基礎を学び、皮膚や被毛に対するお手入れの方法を学ぶ
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	グルーミングとは何か(歴史と役割)
項目2	第3回～第4回	グルーミング用語について
項目3	第5回～第6回	トリミングの環境(安全性と公衆衛生)
項目4	第7回～第8回	トリマーの見出しなみ、健康管理について
項目5	第9回～第10回	グルーミングツールについて(種類)
項目6	第11回～第12回	グルーミングツールの正しい使い方とお手入れ方法について
項目7	第13回～第14回	犬の体の基礎について(骨格名称、犬体名称)
項目8	第15回～第16回	犬の皮膚について(構造、役割)
項目9	第17回～第18回	犬の被毛について(基礎知識、タイプ、構造)
項目10	第19回～第20回	犬の日常的なケアについて(目、爪、歯のお手入れ)
項目11	第21回～第22回	トリミング時の保定について
項目12	第23回～第24回	爪切り、足裏クリッピング、耳掃除について
項目13	第25回～第26回	ブラッシングについて
項目14	第27回～第28回	シャンプーとドライイングについて
項目15	第29回～第30回	商品学(グルーミング時に使うシャンプー剤などについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	グルーミング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90時間/年 全90回	単位

講義概要:実習を通してベーシックの基本の技術を習得し、時間内にカットまで仕上げ、C級ライセンス取得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全90回	【モデルグルーミング】・爪切り・足裏のクリッピング・耳掃除・シャンプー・ドライング
項目2		【ベーシック実習】・ベーシックと足回りのカットのみ
項目3		【モデルグルーミング】・ボディのクリッピング・四肢のカット(ハサミ仕上げ)・顔のカット
項目4		【リボン製作とラッピングについて】
項目5		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって 接客実習を行う
項目6		【トリミング実習】・全身カット時間内に一頭仕上げられる
項目7		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目8		【ショークリップについて】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	ドッグトレーニング理論 I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:オオカミとの比較から犬が家畜化される過程の習熟を図り、ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。 脳と行動の関係について理解するとともに動物行動学に沿った具体的なトレーニング方法の選択・組み立て方を身に付ける。
到達目標: 多岐にわたるトレーニング方法の種類について各特性を理解し説明することが出来る。又、トレーニングの際に必要な各道具の知識を習得し選択することができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	犬の進化と家畜化 (狼との比較、伴侶となるまでの各経緯、遺伝的素質、環境要因など)
項目2	第5回～第8回	学習の生物学的なしくみ (大脳辺縁系、大脳皮質、成長過程・去勢避妊手術の影響、雌雄ホルモン、社会的階級制度など)
項目3	第9回～第12回	行動に影響する生理物質 (神経伝達物質、脳内物質の役割、気質の3軸モデルなど)
項目4-①	第13回～第15回	犬の言葉① (聴覚・体臭・視覚によるコミュニケーション、ボディーランゲージ、カーミングシグナルなど)
項目4-②	第16回～第18回	犬の言葉② (回避行動、能動的服従、受動的服従、先制攻撃型、守備防衛型など)
項目5	第19回～第22回	学習理論 (古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、感作など)
項目6	第23回～第26回	トレーニング方法 (強制トレーニング、直接誘導法、ルアー誘導法、キャッチング、シェーピング、逆行連鎖、ターゲットなど)
項目7	第27回～第30回	犬具 (ハーフチョーク、チョークチェーン、ピンチカラー、リミテッド・スリッカラー、ジェントル・リーダー、イージーウォークハーネス等の各使用方法・装着方法・注意点・得られる効果など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	総合トレーニング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90時間/年	単位

講義概要:総合トレーニング実習 I では、「聴く力」「伝える力」「指導する力」を要するインストラクションスキルを身に付け、クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。
到達目標:
クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

授 業 計 画

項目1	全90回	インストラクションスキル (題材の選定・目標の把握・展開順序・指導能力など)
項目2		カウンセリングスキル (カウンセリングの基本姿勢・傾聴・繰り返し技法・信頼関係の構築方法など)
項目3		クライアントに合わせたトレーニングスケジュールの組方 (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮したトレーニングスケジュールの組立て方など)
項目4		クライアント指導(基礎) (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮した指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	飼育管理学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標:
犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習 I」にて行うことが出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年 ペットビジネス学科 1年	科 目 名 動物飼育実習 I	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
	授業時間数 90 時間/年	単 位 数 単位
教科書名		

講義概要:
実際に動物を世話することで観察力と動物福祉の精神を養う。また、衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力を身に付ける。
到達目標:
個体別の生活様式から正常と異常を見極め、各動物の飼育の仕方などを説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	飼育動物について(本校にいる飼育動物について理解する)
項目2	第4回～第11回	犬の飼育
項目3	第12回～第19回	猫の飼育
項目4	第20回～第27回	ウサギの飼育
項目5	第28回～第35回	ハムスターの飼育
項目6	第36回～第43回	モルモットの飼育
項目7	第44回～第51回	フェレットの飼育
項目8	第52回～第59回	ハリネズミの飼育
項目9	第60回～第67回	チンチラの飼育
項目10	第68回～第75回	小鳥の飼育
項目11	第76回～第90回	トレーニング
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物保護学概論	桑内由子(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保護について、感情論ではなく客観的データを基に講義を行う。
動物を愛護する側の視点だけでなく、社会全体における動物に対する評価を認識する。
到達目標:
日本の現状を理解し、日本と世界の動物保護を比較することで、保護環境の向上のための考察、および行動を目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物保護とは
項目2	第7回～第12回	動物保護の現状について
項目3	第13回～第18回	殺処分について
項目4	第19回～第24回	日本の動物保護
項目5	第25回～第30回	世界の動物保護
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院にて保護活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物福祉学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物福祉の考え方、改善について、現状と今後の展望を合わせて講義を行う。
到達目標:
動物福祉を正しく理解し、様々な観点から人と動物の双方にとってより良い解決を目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物福祉とは
項目2	第7回～第12回	動物福祉の考え方
項目3	第13回～第18回	動物福祉の改善について
項目4	第19回～第24回	動物福祉の現状
項目5	第25回～第30回	動物福祉の展望
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した飼育経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物保全学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保全の概要および、日本と世界の動物保全について比較し、問題点とその改善を考察ができる講義を行う。
到達目標:
動物保全の全体像を捉え、日本と世界の取り組みを理解し、今後の動物保全について自らの考えを持てることを目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物保全とは
項目2	第7回～第12回	我が国における動物保全
項目3	第13回～第18回	他国における動物保全
項目4	第19回～第24回	動物保全の問題点と改善点
項目5	第25回～第30回	今後の動物保全
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて環境保全活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 通年	経営学・ビジネススキル	豊實祐之(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する
到達目標:
1人1人が自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。

授 業 計 画

項目1	全30回	自己分析、自己紹介
項目2		他者理解、他己紹介
項目3		履歴書の書き方
項目4		電話のかけ方
項目5		企業研究
項目6		面接対策
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は一般企業において総合職の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 通年	ボランティア学	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。
また、周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する
到達目標:
主体的に考え、慈善事業に対して利他の精神で活動出来るようになる。

授 業 計 画

項目 1	全30回	主体性とは(主体性と自主性の違い、ボランティアの意義について)
項目 2		地域清掃ボランティア(普段通学する道を清掃する)
項目 3		愛護センターイベントボランティア(愛護センターで開かれるイベントのお手伝いを行う)
項目 4		グループワーク(自分たちに出来る活動を考え、実践する)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等) ペットマイスター学科3, 4年次は30時間/年とし、4年間合計全90回とする。		特記事項 担当教員は警察犬訓練所において動物保護活動やセラピー犬活動に従事した経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	犬種別ペットクリップ I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要: 犬種のそれぞれ特徴を理解し、お客様の要望を踏まえ、その犬種にあったペットクリップを実践で学ぶ
到達目標:
各犬種のカット法を理解した上で仕上げられるようになる

授 業 計 画

項目1	全90回	【チワワ、ダックス、パピヨン、シェルティ、キャバリアなどの犬種の飾り毛のカット】
項目2		【トイ・プードルのテディベアカット】
項目3		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目4		【ポメラニアンの子カット】
項目5		【シーズーの子カット】
項目6		【マルチーズの子カット】
項目7		【ヨークシャー・テリアの子カット】
項目8		【ビション・フリーゼの子カット】
項目9		【ミニチュア・シュナウザーの子カット】
項目10		【アメリカン・コッカー・スパニエルの子カット】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	ハンドリング学I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
ドッグショーについて理解し、犬の見せ方を実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーの歴史
項目2	第3回～第4回	犬に関する基礎知識(習性、心理、行動)
項目3	第5回～第6回	犬の体構造
項目4	第7回～第8回	ハンドリングの審査について
項目5	第9回～第10回	ハンドリングとは
項目6	第11回～第12回	スタックについて(テーブルでのスタックについて、テーブルでのフリースタンディングについて)
項目7	第13回～第14回	小型犬のスタックについて
項目8	第15回～第16回	大型犬のスタックについて(犬の正面におけるフリースタンディングについて)
項目9	第17回～第18回	リードのかけ方(種類、用途)、リードの持ち方
項目10	第19回～第20回	ムーブメント①歩様とアンギュレーション
項目11	第21回～第22回	ムーブメント②歩速とステップ
項目12	第23回～第24回	歩行について①トライアングルによる犬の見せ方 ②アップ&ダウンによる犬の見せ方
項目13	第25回～第26回	歩行パターンについて(トライアングル、アップ&ダウン、リンガー周、L字、T字など)
項目14	第27回～第28回	歯の見せ方について、耳の正しいセットについて
項目15	第29回～第30回	リードワークについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陳経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	ペット造形学・美学 I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
ペット犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第30回	シーザーのデッサン
項目2	第31回～第40回	犬体模型の作製(画用紙)
項目3	第41回～第50回	犬体模型の作製(粘土)
項目4	第51回～第60回	犬体模型の作製(羊毛フェルト)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物薬理学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数	単 位 数
	60時間/年	単 位

講義概要:
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、 動物の疾病 の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
到達目標:
薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し実際の医療現場での行動に活かすことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物薬理学の基礎 (獣医臨床における薬物治療の概念、目的を理解する / 薬理作用とその発現機構、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性 / 薬物間相互作用、副作用と中毒について)
項目2	第7回～第12回	動物看護師による薬物の取り扱い (投薬量が計算、薬物の適切な管理方法 / 各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導)
項目3	第13回～第18回	神経系に作用する薬物 (全身麻酔薬、局所麻酔薬、鎮痛薬 / 運動神経系に作用する薬、鎮静薬、抗けいれん薬 / 問題行動の治療に用いられる薬)
項目4	第19回～第24回	呼吸器系に作用する薬物 (呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬)
項目5	第25回～第30回	循環器・泌尿器に作用する薬物 (血管拡張薬(降圧薬)、心不全治療薬(強心薬)、抗不整脈薬、利尿薬)
項目6	第31回～第36回	消化器に作用する薬物 (制吐薬、制酸薬、胃粘膜保護薬 / 消化管運動促進薬、止瀉薬、瀉下薬)
項目7	第37回～第42回	消化管運動促進薬 (肝疾患の治療に用いられる薬物、腸酵素製剤)
項目8	第43回～第48回	オータコイド、代謝・内分泌系 (代表的なオータコイド、糖尿病治療薬 / 甲状腺ホルモン製剤、ステロイドホルモン製剤)
項目9	第49回～第54回	血液・免疫系に作用する薬物 (抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬(止血薬) / 非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、免疫抑制薬)
項目10	第55回～第60回	感染症薬・感染症予防・化学療法薬 (抗菌薬(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)、抗真菌薬、抗がん剤 / 駆虫薬、殺虫薬、消毒薬、化学療法薬、悪性腫瘍に用いられる薬物、抗がん剤)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物生活環境学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、
ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故や怪我等のリスクを
除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解する
到達目標:
ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解し、実践できる

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	飼養環境整備(動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法)
項目2	第3回～第4回	飼養環境整備(ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法)
項目3	第5回～第6回	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン(ペットツーリズム/現状と実施方法、宿泊ホテルの環境整備・管理方法、ドッグラン/環境整備・管理方法)(ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興)
項目4	第7回～第9回	保護収容施設(動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理方法、シェルターメディスン)
項目5	第10回～第12回	保護収容施設(動物愛護センターの役割、施設の概要、普及啓発活動)
項目6	第13回～第15回	ペットへの教育・訓練施設(動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等)
項目7	第16回～第18回	動物介在教育施設(学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法)
項目8	第19回～第21回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(飼育マナーの必要性、目的、歴史、地域における飼育マナーの違い)
項目9	第22回～第24回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例)
項目10	第25回～第27回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(愛玩動物の種類別に必要とされる飼育マナー)
項目11	第28回～第30回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(ペット保険の仕組みと実態)

成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院において 動物看護師およびトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 1年	科 目 名 動物臨床検査学	教員氏名 延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	臨床検査の基礎(臨床検査における愛玩動物看護師の役割、基準値、感度、特異度、精度管理、検体採取法)
項目2	第5回～第8回	血液検査(血漿、血清の分離法、全血球計算法、血液塗抹の作製・観察法、HT管検査)
項目3	第9回～第12回	血液検査(凝固検査、血液化学検査、血液ガス検査、免疫学的検査)
項目4	第13回～第16回	尿検査(性状検査、尿沈渣)
項目5	第17回～第20回	糞便検査(虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法)
項目6	第21回～第25回	細胞診と病理組織検査(細胞診断、病理組織検査のための検体の取り扱い)
項目7	第26回～第30回	遺伝子検査(目的と応用例、検体の採取および取り扱い)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護師として動物病院での経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 1年	科 目 名 動物臨床検査学実習	教員氏名 延原純子(実務経験あり)
	授業時間数 60 時間/年	単 位 数 単位
教科書名 動物看護コアテキスト5巻		

講義概要:
検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	検体採取、処理の手順
項目2	第6回～第10回	マイクロピペットや遠心分離器の使用、操作
項目3	第11回～第15回	血漿、血清の分離
項目4	第16回～第21回	血液塗沫標本作成、染色
項目5	第22回～第27回	血液塗沫標本の観察、白血球の分類
項目6	第28回～第33回	全血球計算および血液化学検査の実施
項目7	第34回～第39回	簡易血清学的検査の実施
項目8	第40回～第45回	尿検査を実施、物理化学性状の記録
項目9	第46回～第51回	尿沈渣を観察、所見の記録
項目10	第52回～第56回	糞便検査の実施、虫卵および原虫の検出
項目11	第57回～第60回	細胞診の準備、補助
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	服従訓練 I	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:指導手のコマンドに対し犬が従順に適応する基礎的な服従訓練を実践的に学ぶとともに、それらを活用した行動修正法の知識を習得する。
到達目標:
又、犬の性格・犬種・飼育環境等に合わせた行動改善修正法を判断・選択し改善に向けたトレーニングスケジュールを自身で組立てる知識を身に付ける

授 業 計 画

項目1	全90回	道具 (首輪・リード・報酬・嫌悪刺激等のトレーニングに使用する道具を使い分ける)
項目2		服従訓練 (CD I S家庭犬競技準初等科の内容)
項目3		問題行動予防法 (健康状態、環境の向上、リーダーシップ、全般的な管理など)
項目4		行動修正法 (甘噛み、トイレトレーニング、破壊行動、物を守る、防御的攻撃行動、先制的攻撃行動など)
項目5		トレーニングスケジュールの組立て (犬の性格・犬種・年齢・性別・飼育環境に沿って組立てる)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	アジリティ I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び運動能力の向上を目指す。ドッグスポーツの起源を理解するとともに、アジリティの歴史から競技概要を理解する。
到達目標:
使用する障害物の名称や組立方法を習得し安全な道具設置を身に付けるとともに各障害物のトレーニング方法を習熟する。

授 業 計 画

項目1	全90回	ドッグスポーツの概要 (アジリティ・ディスク・フライボール・ノーズワークなど)
項目2		障害物設置基準 (体高別グループ分け・障害物配置基準など)
項目3		各障害物のトレーニング方法 (陽性強化・嫌悪刺激の使い分けなど)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物園学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
世界と日本の動物園の歴史から動物園動物の福祉、動物園の存在意義について解説する。
到達目標:
動物園の歴史からどのように現在の動物園が作られたのかを理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物園学とは
項目2	第7回～第12回	動物園の歴史
項目3	第13回～第18回	動物園の生物学
項目4	第19回～第24回	動物園の保全生物学
項目5	第25回～第30回	動物園の飼育管理学
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	生物分類学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
現在認識されている生物多様性を俯瞰的に把握し、進化的背景を踏まえて生物分類の基礎を学ぶ
到達目標:
分類学の基本的知識を身に着け、進化の理論やメカニズム、生物多様性が成立した背景やその解析方法を理解できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	分類と分類学
項目2	第6回～第10回	国際動物命名規約
項目3	第11回～第15回	新しい分類学
項目4	第16回～第30回	脊椎動物の分類
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 1年	動物展示学・実習 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単位

講義概要:
動物飼育の目的を理解したうえで様々な展示方法を解説する。
到達目標:
実際に動物園に行った際にどのような展示方法がとられているのか理解できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第12回	動物園展示の形態
項目2	第13回～第24回	ハーゲンベックの革命
項目3	第25回～第36回	ランドスケープ・イマージョンへ
項目4	第37回～第48回	ストーリー性とテーマパーク化
項目5	第49回～第60回	日本の展示文化
項目6	第61回～第72回	海外の展示文化
項目7	第73回～第84回	解説サイン
項目8	第85回～第96回	景観デザイン
項目9	第97回～第108回	展示の評価
項目10	第109回～第120回	体験型展示
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 動物病理学	教員氏名 木下啓明(実務経験あり)
	授業時間数 30時間/年	単 位 数 単 位
教科書名 動物看護コアテキスト3巻		

講義概要:
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
到達目標:
細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物病理学の基礎 (病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義／病理組織標本の作製法／病理組織学的検査の実施手順)
項目2	第6回～第10回	細胞や組織に生じる変化 (変性と物質沈着／壊死とアポトーシス／細胞増殖のメカニズム、再生と化生／低形成と萎縮／過形成と肥大)
項目3	第11回～第15回	循環障害 (充血とうっ血／出血の原因、病態の理解／血栓の成因／虚血と梗塞／浮腫、水腫／ショックの原因と分類、病態／播種性血管内凝固(DIC)の病態)
項目4	第16回～第20回	炎症 (炎症の定義と5大主徴／炎症の分類と原因、特徴／炎症に関与する細胞と化学伝達物質について／炎症の経過と治癒)
項目5	第21回～第25回	腫瘍 (腫瘍の定義と分類／腫瘍の原因と発生機序／腫瘍と宿主の関係／腫瘍の転移と進行)
項目6	第26回～第30回	先天異常 (遺伝子・染色体異常／発生異常と奇形)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	適正飼養指導論	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。
到達目標:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解し、啓発できる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	愛玩動物の飼養(適正飼養の目的、概念について、現状について)
項目2	第5回～第8回	愛玩動物の飼養(飼養によって人間が受ける影響と問題点、飼養のニーズや目的の理解と共に、グリーフケア、ペットロスについて概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する)
項目3	第9回～第12回	適正飼養の推進(支援の目的と活動について理解、動物取扱業者における適正飼養について理解)
項目4	第13回～第16回	適正飼養の推進(過剰繁殖の問題とその対策についての理解、問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解)
項目5	第17回～第20回	災害危機管理と支援(同行避難の重要性、愛玩動物とその飼い主の災害と備え、災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割)
項目6	第21回～第25回	動物愛護管理行政(公衆衛生における愛玩動物看護師の役割、動物愛護週間の役割と実施状況、犬猫の引き取りおよび負傷動物などの収容並びに処分の状況)
項目7	第26回～第30回	動物愛護管理行政(動物による事故の内容と報告状況、動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割、動物取扱責任者の選任条件と役割)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 動物看護関連法規	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
	授業時間数 15 時間/年	単 位 数 単位
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻		

講義概要:
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における動物看護師の役割を理解する。
到達目標:
法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身に付ける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	法的総論(法の体系、獣医療に関する法規と愛玩動物看護師の関わり)
項目2	第3回～第5回	愛玩動物看護師法(目的、定義)
項目3	第6回～第7回	獣医療関連行政法規(獣医師法の概要、獣医療法の概要)
項目4	第8回～第9回	公衆衛生行政法規(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要)
項目5	第10回～第11回	公衆衛生行政法規(狂犬病予防法の概要)
項目6	第12回～第13回	薬事行政法規(医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律の概要)
項目7	第14回～第15回	薬事行政法規(麻薬及び向精神薬取締法の概要、毒物及び劇物取締法の概要)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 動物愛護・適正飼養関連法規	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
	授業時間数 15 時間/年	単 位 数 単位
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻		

講義概要:
動物愛護および適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。
関連する法規を理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回	愛護・適正飼養の基本となる概念(法規と動物看護師の関わりについて理解)
項目2	第2回～第4回	愛護・適正飼養関連行政法規 (動物の愛護および管理に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律)
項目3	第5回～第7回	社会福祉行政・環境衛生法規 (身体障害者補助犬法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律)
項目4	第8回～第9回	野生動物等に関する法律および条約 (生物多様性の概要、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)
項目5	第10回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約)
項目6	第11回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)
項目7	第12回	野生動物等に関する法律および条約 (鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)
項目8	第13回	野生動物等に関する法律および条約 (特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)
項目9	第14回	野生動物等に関する法律および条約 (自然公園法における野生動植物保護に関する制度)
項目10	第15回	野生動物等に関する法律および条約 (文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	比較動物学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
飼養動物や野生動物の概要を理解すると共に、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験とのかかわり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ
到達目標:
野生動物における生態系と環境保全および外来生物について理解し自分の意見が述べられる
展示動物の管理について入手、飼育法を理解し自分の意見が述べられる

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の種類及び特性(愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物の比較、歴史、社会的位置づけ、特徴)
項目2	第11回～第20回	産業動物(馬、牛、めん羊、山羊、豚、鳥の歴史、品種、特徴)
項目3	第21回～第30回	産業動物(各家畜の消化器の形態と昨日、食性、性周期、繁殖生理、飼養施設、食性と飼養法)
項目4	第31回～第40回	実験動物(目的、意義、飼養管理、繁殖法、遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御、疾患モデル動物)
項目5	第41回～第50回	野生動物(分類、生物多様性、鳥獣害の現状と保全の意義、絶滅危惧種の定義、動物、原因、保全方法、外来生物の正義、在来生態系に及ぼす影響、対策)
項目6	第51回～第60回	展示動物(意義と役割、個体・群管理、行動管理、施設管理)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は豚舎、動物園、研究施設において飼育員の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物感染症学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年	単位

講義概要:
微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、
予防・治療など感染症対策の基礎を習得する。
感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。
到達目標:
寄生現象、宿主との関連性を理解し予防獣医学に貢献出来る。
主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解し飼い主様に説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	定義(感染症とは、微生物とは、寄生虫とは)
項目2	第6回～第10回	微生物(細菌、真菌、ウイルス等の分類、特性、伝播様式等)
項目3	第11回～第15回	微生物検査(検体採取と取り扱い、無菌環境下での必要な手技、無菌環境下での手技、微生物培養法、顕微鏡による観察、抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む)、薬剤感受性試験)
項目4	第16回～第20回	内部寄生虫(線虫類、条虫類、吸虫類、原虫類)
項目5	第21回～第25回	外部寄生虫(マダニ類、マダニ類以外のダニ類、昆虫類)
項目6	第26回～第30回	線虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (回虫類、鉤虫、鞭虫、糞線虫、東洋眼虫、猫毛細線虫、猫胃虫、犬糸状虫)
項目7	第31回～第35回	条虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (瓜実条虫、マンソン裂頭条虫、猫条虫、日本海(広節)裂頭条虫)
項目8	第36回～第40回	吸虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (壺形吸虫、横川吸虫、肝吸虫、肺吸虫、宮崎肺吸虫、ウェステルマン肺吸虫、日本住血吸虫)
項目9	第41回～第45回	原虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (コクシジウム、クリプトスポリジウム、ジアルジア、トリコモナス(腸トリコモナス)、トキソプラズマ、バベシア、ヘモバルトネラ)
項目10	第46回～第50回	節足動物の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (フタトゲチマダニ、ショウコウヒゼンダニ、ツリガネチマダニ、キチマダニ、ヤマトマダニ、ツルツエマダニ)
項目11	第51回～第55回	マダニ類以外のダニ類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (ヒゼンダニ類、ミミヒゼンダニ、ニキビダニ(アカラス)、イヌツメダニ)
項目12	第56回～第60回	昆虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (イヌシラミ、ネコジラミ、イヌハジラミ、ネコハジラミ、イヌノミ、ネコノミ)
項目13	第61回～第65回	寄生虫疾患の検査、診断法、駆虫薬・駆除剤の使用法
項目14	第66回～第70回	免疫 (免疫とは、免疫応答、自然免疫、獲得免疫、抗体、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全)
項目15	第71回～第75回	ワクチン(機序、効果、プログラム、ブースター効果、狂犬病ワクチン、混合ワクチン)
項目16	第76回～第80回	消毒と滅菌(滅菌法(火炎、乾熱、高圧蒸気、濾過、ガス)、消毒法(煮沸、蒸気、各種消毒薬とその作用機序))
項目17	第81回～第85回	衛生管理(生物学的ハザード、化学的ハザード、物理的ハザード、整理・整頓・清掃・清潔)
項目18	第86回～第90回	動物感染症(感染経路と伝播様式の理解、感染症の成立要因、主な感染症、治療法、予防法)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物愛護・適正飼養実習	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、 愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得
到達目標:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなどができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の基本的な取り扱い(ハンドリング、安全な散歩・運動)
項目2	第11回～第20回	動物の基本的な取り扱い(犬の散歩、運動、ふれあいの為の適切な道具選択)
項目3	第21回～第30回	動物の基本的な取り扱い(グルーミングの実施、飼養環境を適切に整備できる)
項目4	第31回～第40回	飼い主とのコミュニケーション(品種に応じた特徴の説明、適切な飼養方法の指導、飼い主の法令遵守を指導)
項目5	第41回～第50回	飼い主とのコミュニケーション(飼養が困難となっている飼い主への支援説明、避難所等災害時の飼い主への支援説明)
項目6	第51回～第60回	動物愛護管理行政(動物愛護管理センターの活動を理解、動物取扱業へ指導すべき内容についての理解、動物取扱業における顧客等への対応について実践する)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院にて動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 ペット関連産業概論	教員氏名 桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ
到達目標:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を身につける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第7回	ペット関連産業における職業倫理(責任と社会的役割、商取引における関連法規の概要理解、動物の愛護および管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法の理解)
項目2	第8回～第14回	ペットの飼養実態と市場規模(ペットの飼養実態およびペット関連産業の概要、市場規模について理解)
項目3	第15回～第22回	各ペット関連産業の現状と課題(ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題の理解)
項目4	第23回～第30回	動物取扱業(動物取扱業制度の概要、動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取り扱い方法や衛生管理に係る手法の理解)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	グルーミング学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:一年時に学んだ基礎を踏まえて、犬種に応じたペットクリップ、ショークリップなどに関する高い知識の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	グルーミングの必要性とトリマーの心得
項目2	第3回～第4回	トリミングのイメージの作り方と描き方
項目3	第5回～第6回	犬体用語について①
項目4	第7回～第8回	犬体用語について②
項目5	第9回～第10回	グルーミング用語について
項目6	第11回～第12回	皮膚と被毛について
項目7	第13回～第14回	犬のドッグショーの歴史
項目8	第15回～第16回	ショークリップについて(目的に応じたショークリップについて)
項目9	第17回～第18回	プードルのショークリップについて
項目10	第19回～第20回	ショー用語について
項目11	第21回～第22回	ショーで使う道具について
項目12	第23回～第24回	ショーにおける犬の扱いかた、お手入れについて
項目13	第25回～第26回	シザーリング犬種のグルーミングについて
項目14	第27回～第28回	スイニング犬種のグルーミングについて
項目15	第29回～第30回	ブラッキング犬種のグルーミングについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	ドッグトレーニング理論Ⅱ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要: 犬が起こした行動からオペラント条件付けの基本的な4つの因果関係に振り分けるとともにそれらを活用した動機付けトレーニングの学習原理の知識を習得する。
到達目標: 又、犬の許容範囲を示すために存在する様々なコミュニケーション方法について判別する知識を身に付け、カーミング・シグナルを区別することができる。LEADプログラムを使用し犬との関わりに活かすことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	オペラント条件付け (正の強化、正の罰、負の強化、負の罰など)
項目2	第6回～第10回	領域 (個人空間、逃走距離、臨界距離、攻撃距離など)
項目3	第11回～第15回	カーミングシグナル 静止画、動画、実物の犬をよく観察しカーミング・シグナルを見分けるなど)
項目4	第16回～第20回	LEADプログラム (注意の引き付け方、食事の管理、ゲームの管理、領域の支配など)
項目5-①	第21回～第23回	学習理論① (一次性強化子、二次性強化子、消去、自然回復、トレーニングのABC、オーバーシャドーイング、般化、ブレマックの原理)
項目5-②	第24回～第25回	学習理論② (拮抗条件付け、系統的脱感作、鋭敏化など)
項目6	第26回～第30回	犬の行動を安定させるための4つのD (距離、継続時間、多様性、報酬の配分など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 飼育管理学Ⅱ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単 位
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻		

講義概要:
伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標:
犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅱ」にて行うことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物福祉学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物福祉学Ⅰで学んだ内容から、関わりの多い犬・猫の福祉について考え、現状や問題点を歴史的背景も含めて講義する。
到達目標:
動物福祉を正しく理解し、犬・猫について自分たちにどのようなことが出来るのか模索し、実践する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	伴侶動物の福祉について
項目2	第11回～第20回	歴史的背景
項目3	第21回～第30回	犬、猫の福祉に係わる問題点
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した飼育経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物保全学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保全学Ⅰにおいて学んだ内容から自分たちに出来ることをグループで考え、実践する。
到達目標:
身近なところから出来る動物保全を考えられるようになり、動物保全に係わっている責任感を認識できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	自分に出来る動物保全の検討
項目2	第6回～第28回	グループワーク
項目3	第29回～第30回	保全計画の発表および質疑応答
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて環境保全活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	グルーミング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要: 実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全180回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって接客実習を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使つてのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭仕上げられる
項目5		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目6		【B級ライセンス対策】ショークリッパー一頭仕上げまで行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	犬種別ショークリップI	大栗里美(実務経験あり)
教科書名:スタンダードスタイル	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
到達目標:
各犬種のショークリップを理解し、仕上げられるようになる。

授 業 計 画

項目1	全180回	【トイ・プードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップペット・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショークリップ】
項目14		【ウェルツシュ・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	犬種別ペットクリップⅡ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単 位

講義概要:犬種の特徴を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標:
犬種別ペットクリップⅠの内容に早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる

授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティペアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム＆ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアのペットカット】
項目8		【シーズーのペットカット】
項目9		【マルチーズのペットカット】
項目10		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目11	全120回	【ビション・フリーゼのペットカット】
項目12		【ミニチュア・シュнауザーのペットカット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目15		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアのペットクリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップ】
項目18		【ケアンテリアのペット・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアのペットクリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアのペットクリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアのペットクリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	ハンドリング学Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
犬種ごとのスタンダードの知識を深め、ショーのためのグルーミングの必要性を学び、各犬種の見せ方、ハンドリングの技術の習得を目指す

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて①(パウダーリング、ラッピング)
項目2	第3回～第4回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて②(ブラシング、飾り毛のカット)
項目3	第5回～第6回	テイルセットについて
項目4	第7回～第8回	ドッグ・ショーでのマナーとルール
項目5	第9回～第10回	審査を受けるときのマナーとテクニック
項目6	第11回～第12回	ドッグ・ショーにおけるパピートレーニングについて
項目7	第13回～第14回	各犬種の見せ方①シェパード・シープ・ドッグ
項目8	第15回～第16回	各犬種の見せ方②ミニチュア・シュナウザー
項目9	第17回～第18回	各犬種の見せ方③ヨークシャー・テリア
項目10	第19回～第20回	各犬種の見せ方④ミニチュア・ダックス・フンド
項目11	第21回～第22回	各犬種の見せ方⑤アメリカン・コッカー・スパニエル
項目12	第23回～第24回	各犬種の見せ方⑥ゴールデン・レトリバー
項目13	第25回～第26回	各犬種の見せ方⑦トイ・プードル、ミニチュア・プードル
項目14	第27回～第28回	各犬種の見せ方⑧パピヨン
項目15	第29回～第30回	各犬種の見せ方⑨マルチーズ、シーズー
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陣経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	ペット造形学・美学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	全30回	トイプードルのコンチネンタル・クリップ デッサン
項目2		トイプードルのパピークリップ デッサン
項目3		トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ デッサン
項目4		ビション・フリーゼのショー・クリップ デッサン
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	総合トレーニング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:
犬を使ったデモンストレーション技術を身に付けるとともにしつけ教室開催に向けた知識を習得する。
到達目標:
総合トレーニング実習Ⅰの知識・技術を基にカウンセリングからクライアントの要望に合わせたトレーニングを提案できる。

授 業 計 画

項目1	全180回	デモンストレーション実施 (説明・実演など)
項目2		しつけ教室開催にむけて (企画・運営など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	服従訓練Ⅱ	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要: 服従訓練Ⅰで学んだ知識・技術を基に訓練競技会出場に向けたより実践的な競技規則やマナーを習得する。
到達目標:
問題解決能力やトレーニング実践能力を身に付けクライアントの生活環境を基にクライアントに合った問題行動改善方法を提案・指導することができる。

授 業 計 画

項目1	全180回	服従訓練(応用) (CDⅡ 家庭犬訓練試験中等科の内容など)
項目2		訓練競技会 (競技規則、競技訓練科目、会場マナー、犬の扱いなど)
項目3		クライアント指導 (クライアントに合わせた問題行動改善方法の指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	アジリティⅡ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:
競技会出場に向けた審査基準を身に付けるとともにトレーニングスケジュールを組み実践する。制限時間内に
コースの順番を記憶し人間の立ち位置・犬の走行ルートを考案する。
到達目標:
アジリティⅠで学んだ知識・技術を基により実践的な犬種・年齢等に合わせたアジリティトレーニングを習得し実践することができる。

授 業 計 画

項目1	全180回	競技会の審査基準 (障害物の種類・規定時間・科目規定など)
項目2		検分 (立ち位置、走行ルート、障害物記憶など)
項目3		トレーニングスケジュールの組立 (細分化した目標設定、犬種・年齢・性格を考慮した組立て方など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物飼育実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単 位

講義概要:
動物飼育実習Ⅰに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
到達目標:
適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。

授 業 計 画

項目1	全120回	動物福祉を意識した飼育
項目2		チームを意識した飼育
項目3		コミュニケーション力を活かした飼育
項目4		観察力を高める飼育
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 動物園学Ⅱ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単位

講義概要:
動物園学Ⅰにおいて学んだ内容をさらに細かな学問に分けて解説を行う。
到達目標:
動物園の4つの存在意義を様々な学問の視点から理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物園の獣医学
項目2	第7回～第12回	動物園の展示学
項目3	第13回～第18回	動物園の教育学
項目4	第19回～第24回	動物園の福祉学
項目5	第25回～第30回	動物園の経営学
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	生物分類学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
生物分類学Ⅰにおいて学んだ内容からそれぞれに分類されている生物について学ぶ
到達目標:
それぞれの分類における動物種や特徴について理解している

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	霊長目
項目2	第4回～第6回	食肉目
項目3	第7回～第9回	長鼻目
項目4	第10回～第12回	奇蹄目
項目5	第13回～第15回	偶蹄目
項目6	第16回～第18回	コウノトリ目
項目7	第19回～第21回	ガンカモ目
項目8	第22回～第24回	キジ目
項目9	第25回～第27回	ツル目
項目10	第28回～第30回	フラミンゴ目
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットビジネス学科 2年	動物展示学・実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年	単 位

講義概要:
動物展示学・実習Ⅰにおいて学んだ様々な展示方法から動物種を決め実際に展示施設を作製する。
到達目標:
来園者側、飼育員側、双方の視点から動物種に適した展示方法を考え、作製することができるようになる。

授 業 計 画

項目1	全180回	動物展示を考える
項目2		動物展示模型の作製
項目3		動物展示の作製
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年 ペットビジネス学科 2年	科 目 名 アニマルトレーニング実習	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 180 時間/年	単 位 数 単位

講義概要:
様々な動物種にあわせたトレーニングスケジュールを組み立てる技術を習得し、アニマルショーが行えるよう励む。
到達目標:
動物種の習性や能力を理解したうえで、観衆を魅了するトレーニングを実践できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	小動物トレーニングについて
項目2	全170回	ウサギのトレーニング
項目3		モルモットのトレーニング
項目4		ハリネズミのトレーニング
項目5		チンチラのトレーニング
項目6		デグーのトレーニング
項目7		猛禽類のトレーニング
項目8		ミイアキャットのトレーニング
項目9	第176回～第180回	学習発表会
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

別表1 愛玩動物看護学科

1年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
生命倫理・動物福祉	○	30	○
動物形態機能学	○	120	○
動物繁殖学	○	30	○
動物行動学	○	30	○
動物栄養学	○	60	○
比較動物学	○	60	○
動物愛護・適正飼養関連法規	○	15	○
動物看護学概論	○	30	○
公衆衛生学	○	60	○
愛玩動物学	○	60	○
人と動物の関係学	○	30	○
動物形態機能学実習	○	30	○
動物愛護・適正飼養実習	○	60	○
グルーミング学Ⅰ	○	15	○
グルーミング実習Ⅰ	○	90	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
ドッグトレーニング理論Ⅰ	○	30	○
総合トレーニング実習Ⅰ	○	120	○
必須受講時間		900	
犬種別ペットクリップⅠ	△	90	○
ハンドリング学Ⅰ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅰ	△	60	○
服従訓練Ⅰ	△	90	○
アジリティⅠ	△	90	○
必須受講時間		180	
合 計		1080	

2年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
動物看護関連法規	○	15	○
動物病理学	○	30	○
動物薬理学	○	60	○
動物感染症学	○	90	○
動物内科看護学	○	90	○
動物外科看護学	○	60	○
動物臨床看護学総論	○	30	○
動物臨床検査学	○	30	○
動物生活環境学	○	30	○
動物臨床検査学実習	○	60	○
グルーミング学Ⅱ	○	15	○
グルーミング実習Ⅱ	○	90	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
ドッグトレーニング理論Ⅱ	○	30	○
総合トレーニング実習Ⅱ	○	120	○
必須受講時間		780	
犬種別ショークリップⅠ	△	120	○
犬種別ペットクリップⅡ	△	120	○
ハンドリング学Ⅱ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅱ	△	30	○
服従訓練Ⅱ	△	150	○
アジリティⅡ	△	150	○
必須受講時間		300	
合 計		1080	

3年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
動物医療コミュニケーション	○	30	○
適正飼養指導論	○	60	○
ペット関連産業概論	○	30	○
動物臨床看護学実習	○	60	○
動物看護総合実習	○	180	○
動物臨床看護学各論	○	120	○
動物内科看護学実習	○	120	○
動物外科看護学実習	○	90	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
必須受講時間		720	
グルーミング学Ⅲ	△	30	○
グルーミング実習Ⅲ	△	90	○
犬種別ショークリップⅡ	△	60	○
犬種別ペットクリップⅢ	△	60	○
ドッグトレーニング理論Ⅲ	△	60	○
総合トレーニング実習Ⅲ	△	90	○
飼育管理学	△	30	○
動物飼育実習Ⅰ	△	30	○
動物飼育実習Ⅱ	△	30	○
必須受講時間		240	
合 計		960	

【実務経験のある教員による授業時数】

3年間合計 3120時間

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	生命倫理・動物福祉	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	生命倫理の概念 (考え方について、獣医療との関わりについて)
項目2	第4回～第7回	動物福祉の概念(福祉の意味、動物の福祉、5つの自由、世界と日本における近代および現代の動物愛護運動について)
項目3	第8回～第12回	動物福祉の歴史(「動物の権利」「動物福祉」思想や課題について、動物福祉の生理学的指標および行動的指標による評価法について、安楽死の考え方について)
項目4	第13回～第16回	愛玩動物の福祉(適正飼育と福祉上の問題、国内外の動物保護活動の現状と課題、飼育法規や殺処分問題・対策について)
項目5	第17回～第20回	愛玩動物の福祉(動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状・対策、災害時の対応)
項目6	第21回～第24回	産業動物の福祉(福祉上の問題、国際的な福祉基準、産業動物の福祉を向上させるための具体的方法)
項目7	第25回～第27回	実験動物の福祉(福祉上の問題、3Rの概念と具体的方法)
項目8	第28回～第30回	展示動物の福祉(福祉上の問題、環境エンリッチメントの種類と内容)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は実験施設、動物園、豚舎において動物福祉を意識した飼育の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物形態機能学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単位

講義概要:
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
到達目標:
正常な動物の様々な部分の形態を知り、機能や薬物の作用などの基礎を身に付け、異常との違いに気付くことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	生命の基本構造 (細胞、組織、遺伝子、生体を構成する要素、体液、電解質、血漿タンパク質、細胞成分、血液成分、など)
項目2	第9回～第16回	骨格 (各骨格の位置、椎骨式、生体の位置と方向を表す用語、名称、基本構造、機能、骨膜、骨髓、関節、韧带、関節包、半月板、捻挫、脱臼、血中Ca濃度、リンの機能、骨の成長、など)
項目3	第17回～第24回	筋肉(分類と役割)
項目4	第25回～第32回	皮膚 (構造、生理学、グルーミングの重要性、犬猫が皮膚病になりやすい理由、アレルギー性皮膚炎、皮膚真菌症、など)
項目5	第33回～第40回	血液系 (血液の成分、リンパ管系、リンパ節、胸管、胸腺、浮腫、造血、など)
項目6-1	第41回～第44回	循環器① (役割、体循環、肺循環、動脈と静脈、血圧と血流、血圧の変動、心臓・肺の構造と機能、心臓の働く仕組み、心電図、心音と血流の関係、主要な動脈・静脈系、など)
項目6-2	第45回～第48回	循環器② (僧帽弁閉鎖不全、フィラリア症、胎仔循環、心室中隔欠損症、動脈管開存症、門脈循環、肝門脈系、など)
項目7	第49回～第56回	呼吸器 (役割、鼻腔、喉頭、喉頭蓋、発声器、咽頭、気管、気管支、肺、脳構造、生理学、換気のしくみ、代表的疾患/呼吸困難、一般的な臨床症状、鼻汁、咳、軟口蓋過長、肺炎、気管虚脱/、など)
項目8	第57回～第64回	消化器 (構造、役割・働き、咀嚼、唾液腺、嚥下、誤嚥、各消化腺・分泌液/胆汁、腸液/、肝臓の働き、下痢と嘔吐、消化器系疾患でみられる症状、胃腸内異物、巨大食道症、肛門囊炎、など)
項目9	第65回～第72回	内分泌 (内分泌系の器官とホルモン、ホルモンの作用、特徴、疾患、など)
項目10	第73回～第80回	泌尿器 (泌尿器系の構造、役割、作用、特徴、腎不全他泌尿器系疾患、など)
項目11	第81回～第88回	神経 (構造、役割、神経細胞の興奮、神経系の分類、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系の二重支配、神経系の看護のポイント、問診とバイタルサイン、主な症状、検査、飼い主への指導、など)
項目12	第89回～第96回	生殖器 (構造、役割、雌雄の生殖器・副生殖器、精子、卵子、生殖器系ホルモン、避妊・去勢のメリット・デメリット、性周期、など) ※交配、妊娠、人工授精、妊娠動物のかんり、分娩、出産、帝王切開、新生仔管理、哺乳、等は繁殖学で行う。
項目13	第97回～第104回	感覚器 (視覚/眼球の構造、役割、眼神経、通光装置、複眼器の構造と役割、視覚の仕組み、眼疾患の一般症状/、聴覚/耳の構造、役割、平衡感覚とその仕組み、耳疾患の原因、耳垢の種類と感染症、など/、嗅覚/鼻の構造、役割、関わる神経、など/、味覚/舌の構造、役割、分泌腺、味蕾の分布、など)
項目14	第105回～第112回	ショック (原因、分類、アナフィラキシーショック、外毒素、内毒素、応急処置、など)
項目15	第113回～第120回	炎症(定義、主徴、など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物繁殖学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:
繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する
到達目標:
犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明出来る。繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることが出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	雄性生殖器 (オスの生殖器の構造、精子)
項目2	第3回～第4回	雌性生殖器 (メスの生殖器の構造、卵子)
項目3	第5回～第6回	ホルモン (性腺刺激ホルモン放出ホルモン、性腺刺激ホルモン(卵胞刺激ホルモン、卵胞ホルモン)、性ステロイドホルモン(アンドロゲン、エストロゲン、プロゲステロン)、その他のホルモン(オキシトシン、プロラクチン、人絨毛性性腺刺激ホルモン、妖馬血清性性腺刺激ホルモン、インヒビン、リラキシン、プロスタグランジン) 1)性腺機能の調節に関与するホルモンの働き(卵胞刺激ホルモン(間質細胞刺激ホルモン、黄体形成ホルモン)) 2)精子の形成 3)性腺刺激ホルモンによる卵巣機能の調節(メス)
項目4	第7回～第8回	性周期 (発情周期、発情周期とホルモン、それぞれの動物の発情周期、犬の発情周期、猫の発情周期、性周期に影響を及ぼすホルモン以外の要因)
項目5	第9回～第10回	交配 (性成熟、生殖周期、卵巣周期、卵胞期、排卵、黄体期、誘起排卵動物、交配適期、交配適期を知るポイント)
項目6	第11回～第12回	妊娠 (受精から分娩まで、受精とは、精子の受精能獲得、卵子の成熟、受精、胚の発育、胎盤の形成、哺乳動物の胎盤の分類、内分泌器官としての胎盤の役割、妊娠の維持、妊娠診断)
項目7	第13回～第14回	分娩 (分娩発来兆候、子宮の変化、分娩発来の機構、母体側のホルモンの変化、分娩の経過、産褥、泌乳、新生子の生理、難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目8	第15回～第16回	新生仔管理 (出産直後、気道確保、授乳、身体検査、体重の変化、反応、温度、狼爪切除・断尾、先天性疾患、新生仔の人工保育)
項目9	第17回～第18回	遺伝子概論 (メンデルの一遺伝子雑種、不完全雄性、致死遺伝子、複対立遺伝子、二遺伝子雑種、性に関する遺伝、DNAとタンパク合成)
項目10	第19回～第20回	繁殖障害 (難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目11	第21回～第22回	疾患(メス) (メスの生殖器疾患(子宮蓄膿症とその看護、子宮粘液症、卵巣腫瘍、子宮の腫瘍))
項目12	第23回～第24回	疾患(オス) (オスの生殖器疾患(前立腺肥大とその看護、前立腺のう胞、前立腺腫瘍、停留精巣、精巣腫瘍))
項目13	第25回～第26回	猫 (ネコの繁殖生理、基本用語、生成熟、生殖に関わるホルモン、発情(特徴、発情周期、兆候)、犬と猫の生殖器の比較、雄・雌の生殖器、受精・着床、胎盤と胎膜、妊娠日数と母体、胎仔の変化、妊娠・妊娠診断法、分娩)
項目14	第27回～第28回	去勢・避妊手術について理解する
項目15	第29回～第30回	人工授精について理解する
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の繁殖や繁殖生理の研究経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物行動学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
到達目標:
犬猫において基本的な行動の意義または機序を説明出来る
犬猫に起こる主な問題行動を理解し、その行動に対しての対応が出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物行動学の基礎(4つの問い、生得的行動と学習行動、脳による行動制御)
項目2	第6回～第10回	個体維持行動(摂食・飲水・排泄・身繕い・護身行動)
項目3	第11回～第15回	発達過程と社会行動 (発達ステージと各時期の行動学的特徴、生殖行動、コミュニケーション行動、敵対行動と神話的行動)
項目4	第16回～第20回	学習理論(行動形成、馴化と感作、古典的条件付けとオペラント条件付け、学習に影響を与える因子)
項目5	第21回～第25回	問題行動(定義と要因、攻撃行動の種類と原因と治療法、恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法、不適切な排泄行動の原因と治療法、老齢性認知機能低下の原因と症状と対応)
項目6	第26回～第30回	行動治療と予防(行動診療の進め方、コンサルテーションの方法、行動修正法と環境修正法の種類と適応、薬物療法、問題行動予防、社会化教室)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物栄養学	膳棚つぐみ(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。
到達目標:
基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違いを理解し、適切な食事管理が出来る
疾患別の療法食の栄養特性を説明出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	基礎栄養(5大栄養素、栄養要求の種差、食性、嗜好、嗜好性、摂食行動)
項目2	第4回～第10回	基礎栄養(健康維持における栄養の持つ意味、栄養素の不足、過剰症)
項目3	第11回～第17回	栄養要求量(エネルギー要求量の意味と計算法、栄養基準、ライフステージごとの栄養管理)
項目4	第18回～第24回	フードと栄養指導(ペットフードの種類、分類、ラベル表示、中毒、与えてはいけないもの、栄養状態の評価法)
項目5	第25回～第31回	フードと栄養指導(肥満の弊害と減量プログラムの作成法)
項目6	第32回～第38回	疾患と栄養(疾患時の食餌療法、療法食の特徴や効果の理解)
項目7	第39回～第44回	強制給餌と経管・静脈栄養法(強制給餌の方法と注意点)
項目8	第45回～第50回	強制給餌と経管・静脈栄養法(経管栄養法の種類と特徴、方法)
項目9	第51回～第55回	強制給餌と経管・静脈栄養法(静脈栄養法の種類と特徴、方法)
項目10	第56回～第60回	強制給餌と経管・静脈栄養法(チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 愛玩動物看護師として動物医療現場での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	比較動物学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
飼養動物や野生動物の概要を理解すると共に、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験とのかかわり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ
到達目標:
野生動物における生態系と環境保全および外来生物について理解し自分の意見が述べられる
展示動物の管理について入手、飼育法を理解し自分の意見が述べられる

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の種類及び特性(愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物の比較、歴史、社会的位置づけ、特徴)
項目2	第11回～第20回	産業動物(馬、牛、めん羊、山羊、豚、鳥の歴史、品種、特徴)
項目3	第21回～第30回	産業動物(各家畜の消化器の形態と昨日、食性、性周期、繁殖生理、飼養施設、食性と飼養法)
項目4	第31回～第40回	実験動物(目的、意義、飼養管理、繁殖法、遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御、疾患モデル動物)
項目5	第41回～第50回	野生動物(分類、生物多様性、鳥獣害の現状と保全の意義、絶滅危惧種の定義、動物、原因、保全方法、外来生物の正義、在来生態系に及ぼす影響、対策)
項目6	第51回～第60回	展示動物(意義と役割、個体・群管理、行動管理、施設管理)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は豚舎、動物園、研究施設において飼育員の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物愛護・適正飼養関連法規	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年	単 位

講義概要:
動物愛護および適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。
関連する法規を理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回	愛護・適正飼養の基本となる概念(法規と動物看護師の関わりについて理解)
項目2	第2回～第4回	愛護・適正飼養関連行政法規 (動物の愛護および管理に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律)
項目3	第5回～第7回	社会福祉行政・環境衛生法規 (身体障害者補助犬法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律)
項目4	第8回～第9回	野生動物等に関する法律および条約 (生物多様性の概要、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)
項目5	第10回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約)
項目6	第11回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)
項目7	第12回	野生動物等に関する法律および条約 (鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)
項目8	第13回	野生動物等に関する法律および条約 (特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)
項目9	第14回	野生動物等に関する法律および条約 (自然公園法における野生動植物保護に関する制度)
項目10	第15回	野生動物等に関する法律および条約 (文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら 動物飼育に携わった経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物看護学概論	膳棚つぐみ(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する
到達目標:
動物看護倫理、実務指針を理解し説明出来る。
獣医療専門用語、POMRの構成、看護過程、問題思考過程を説明出来る。
QOLを基本に患者動物と飼い主様に寄り添った看護を考えることが出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	動物看護の基本となる概念(動物看護の目的、概念)
項目2	第4回～第6回	動物看護の基本となる概念(獣医療と動物看護の歴史、獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領への理解)
項目3	第7回～第9回	動物看護の基本となる概念(動物にとっての健康、福祉、QOLについて理解、動物病院における愛玩動物看護師の役割について)
項目4	第10回～第12回	動物看護の提供体制(社会における動物病院の役割)
項目5	第13回～第15回	動物看護の提供体制(一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携)
項目6	第16回～第18回	動物看護の提供体制(インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務)
項目7	第19回～第21回	愛玩動物看護師の社会的立場(愛玩動物看護師の職能団体について)
項目8	第22回～第24回	愛玩動物看護師の社会的立場(資格制度と業務範囲、資格認定機関)
項目9	第25回～第27回	愛玩動物看護師の社会的立場(愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織、団体)
項目10	第28回～第30回	愛玩動物看護師の社会的立場(国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 愛玩動物看護師として動物医療現場での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	公衆衛生学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護テキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単位
講義概要：		
環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標：		
公衆衛生について基本的な理念を理解し、公衆衛生の基本を考え行動出来る。		
国内外問わず、動物の輸送時や受け入れの際の公衆衛生に関わる注意点を説明出来る。		
滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を説明出来る。		

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	公衆衛生概要 (公衆衛生学の目的、動物看護における重要性、動物看護と公衆衛生、公衆衛生学における動物看護の領域、関連した活動分野、公衆衛生行政の理解、国民衛生の動向、One Healthと獣医療の関係の理解)
項目2	第5回～第7回	環境衛生 (環境衛生の歴史・背景・現在の問題点、化学物質による健康障害の理解、放射線汚染と障害について、衛生動物による人や動物への被害と対策、動物の咬傷による人への健康障害、廃棄物の取り扱い、動物の健康管理の徹底、衛生観念、飼育方法指導、動物としての接し方、)
項目3	第8回～第10回	食品衛生 (食品の安全性、食品残留剤・ホルモン剤、畜産品検査、遺伝子組み換え食品、動物用食品の衛生、食品衛生管理手法HACCP、等)
項目4	第11回～第13回	食中毒(サルモネラ、腸管出血性大腸菌感染症、カンピロバクター腸炎の原因、感染経路、症状、予防)
項目5	第14回～第16回	疫学と疾病予防 (感染の成立、分布、発生原因、流行、疫学調査法、予防、人獣共通感染症とその対策)
項目6	第17回～第20回	感染症とは (微生物、人畜共通感染症、感染の形態(顕性感染、不顕性感染、潜伏期間、キャリアー、日和見感染、)感染経路(経口感染、経皮感染、経胎盤・経乳汁)
項目7	第21回～第23回	薬剤耐性菌 (MRSA/メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、PRSP/ペニシリン耐性肺炎球菌、VRE/バンコマイシン耐性腸球菌、MDRP/多剤耐性緑膿菌、等)
項目8	第24回～第26回	衛生行政と主な関連法規 (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、指定動物と指定感染症に関する法定検査、検査法、狂犬病予防法)
項目9	第27回～第30回	人獣共通感染症 (現状、新興・再興感染症の発生原因、伝播様式、予防対策、動物由来の主なズーノーシス(犬猫類、サル類、げっ歯類)、定義、スーノーシスを学ぶ意義)
項目10	第31回～第33回	院内感染とペットショップ内感染 (院内感染の予防対策、飼い主への日常的な指導(ワクチン接種、抗体検査、来院の際の事前連絡、家庭における管理、ズーノーシス)、待合室・診察室・入院室、ペットショップ感染の予防対策)
項目11	第34回～第37回	咬まれたり引っかかれたりして感染するズーノーシス(狂犬病、ネコ引っかき病、破傷風)の原因、感染経路、症状、予防
項目12	第38回～第41回	日常生活に関係の深いズーノーシス(トキソプラズマ症、皮膚糸状菌症、幼虫移行症、ヒト・イヌ糸状虫症、インフルエンザ、ノミ刺症、アニサキス症)の原因、感染経路、症状、予防
項目13	第42回～第45回	その他の代表的なズーノーシス (レプトスピラ症、オウム病、マダニ媒介疾患、エキノコッカス、ブルセラ症)
項目14	第46回～第49回	サルから感染するズーノーシス (細菌性赤痢、アメーバ赤痢、エボラ出血熱の原因、感染経路、症状、予防)
項目15	第50回～第53回	ウサギから感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫による皮膚炎、外傷性パストレラ、トキソプラズマ、細菌性皮膚炎、野兔病、サルモネラ、仮性結核の特徴、予防)
項目16	第54回～第57回	小型げっ歯類から感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫感染症、サルモネラ症、大腸菌症、カンピロバクター症、レプトスピラ症、小形糸状虫症、その他の特徴、予防、飼育管理)
項目17	第58回～第60回	感染症新法における4類感染症 (クリプトスポリジウム症、ヘリコバクター・ピロリ感染症、ウシ海綿状脳症の原因、感染経路、症状、予防)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は研究施設において衛生管理に従事した経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 1年	科 目 名 愛玩動物学	教員氏名 桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数 60 時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する
到達目標:
愛玩動物について理解し、実行、説明することができる

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	歴史と品種(犬の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング)、猫の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング))
項目2	第6回～第10回	歴史と品種(代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態)
項目3	第11回～第14回	使役動物(使役動物の歴史と福祉、盲導犬・聴導犬・介助犬の歴史、現状、役割、育成、適性)
項目4	第15回～第18回	使役動物(災害補助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬などの種類と特徴、現状)
項目5	第19回～第23回	愛玩動物の飼養管理 (犬の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢、社会化訓練など)
項目6	第24回～第28回	愛玩動物の飼養管理 (猫の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目7	第29回～第30回	愛玩動物の飼養管理 (愛玩鳥の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目8	第31回～第40回	愛玩動物の飼養管理 (代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理など)
項目9	第41回～第45回	動物の基本的な取り扱い(安全に散歩・運動・ふれあいの意義)
項目10	第46回～第55回	動物の基本的な取り扱い(基本的グルーミング/シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)
項目11	第56回～第60回	動物の基本的な取り扱い(適切な飼養環境やストレスの緩和方法)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	人と動物の関係学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
その実態、課題等を含めて理解する。
到達目標:
HABIによる人間と動物にもたらす影響とその目的を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	人間と動物の関わり (動物の飼育・利用の歴史、欧米と日本の動物観、関わりの違い、動物の飼育と利用の現状)
項目2	第5回～第8回	人間の福祉と愛玩動物の関わり(動物虐待と対人暴力の連動性、多頭飼育崩壊、愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵、および人間の加齢に伴う飼養困難になる様々な事情への理解)
項目3	第9回～第12回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物との接触が人間に与える身体的、心理的影響)
項目4	第13回～第16回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(目的と内容)
項目5	第17回～第20回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性)
項目6	第21回～第25回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物病院や愛玩動物看護師の関わり)
項目7	第26回～第30回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物介在活動の経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 1年	科 目 名 動物形態機能学実習	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数 30 時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
動物の身体の状態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。
到達目標:
犬猫の体の構造を理解した上で、動きや生理機能を実際に触ることでより理解する
検査学実習を行う上で顕微鏡の取り扱いを素早く行えるようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	運動器(代表的な骨の名称・特徴、骨格標本による観察、代表的な関節の名称・構造・機能、代表的な骨格筋の名称・構造・機能)
項目2	第11回～第20回	内臓器官(配置、生殖器の雌雄差)
項目3	第21回	顕微鏡の取り扱い(各部位の名称、鏡検条件、適切な操作法、適切な管理法)
項目4	第22回～第30回	組織像の観察(主要臓器の観察・スケッチ、組織像から読み取る構造と機能との関係)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の附属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	動物愛護・適正飼養実習	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、 愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得
到達目標:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなどができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の基本的な取り扱い(ハンドリング、安全な散歩・運動)
項目2	第11回～第20回	動物の基本的な取り扱い(犬の散歩、運動、ふれあいの為の適切な道具選択)
項目3	第21回～第30回	動物の基本的な取り扱い(グルーミングの実施、飼養環境を適切に整備できる)
項目4	第31回～第40回	飼い主とのコミュニケーション(品種に応じた特徴の説明、適切な飼養方法の指導、飼い主の法令遵守を指導)
項目5	第41回～第50回	飼い主とのコミュニケーション(飼養が困難となっている飼い主への支援説明、避難所等災害時の飼い主への支援説明)
項目6	第51回～第60回	動物愛護管理行政(動物愛護管理センターの活動を理解、動物取扱業へ指導すべき内容についての理解、動物取扱業における顧客等への対応について実践する)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院にて動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物看護関連法規	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年	単 位

講義概要:
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における動物看護師の役割を理解する。
到達目標:
法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身に付ける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	法的総論(法の体系、獣医療に関する法規と愛玩動物看護師の関わり)
項目2	第3回～第5回	愛玩動物看護師法(目的、定義)
項目3	第6回～第7回	獣医療関連行政法規(獣医師法の概要、獣医療法の概要)
項目4	第8回～第9回	公衆衛生行政法規(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要)
項目5	第10回～第11回	公衆衛生行政法規(狂犬病予防法の概要)
項目6	第12回～第13回	薬事行政法規(医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律の概要)
項目7	第14回～第15回	薬事行政法規(麻薬及び向精神薬取締法の概要、毒物及び劇物取締法の概要)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物病理学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
到達目標:
細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物病理学の基礎 (病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義／病理組織標本の作製法／病理組織学的検査の実施手順)
項目2	第6回～第10回	細胞や組織に生じる変化 (変性と物質沈着／壊死とアポトーシス／細胞増殖のメカニズム、再生と化生／低形成と萎縮／過形成と肥大)
項目3	第11回～第15回	循環障害 (充血とうっ血／出血の原因、病態の理解／血栓の成因／虚血と梗塞／浮腫、水腫／ショックの原因と分類、病態／播種性血管内凝固(DIC)の病態)
項目4	第16回～第20回	炎症 (炎症の定義と5大主徴／炎症の分類と原因、特徴／炎症に関与する細胞と化学伝達物質について／炎症の経過と治癒)
項目5	第21回～第25回	腫瘍 (腫瘍の定義と分類／腫瘍の原因と発生機序／腫瘍と宿主の関係／腫瘍の転移と進行)
項目6	第26回～第30回	先天異常 (遺伝子・染色体異常／発生異常と奇形)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物薬理学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数	単 位 数
	60時間/年	単 位

講義概要:
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、 動物の疾病 の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
到達目標:
薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し実際の医療現場での行動に活かすことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物薬理学の基礎 (獣医臨床における薬物治療の概念、目的を理解する / 薬理作用とその発現機構、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性 / 薬物間相互作用、副作用と中毒について)
項目2	第7回～第12回	動物看護師による薬物の取り扱い (投薬量が計算、薬物の適切な管理方法 / 各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導)
項目3	第13回～第18回	神経系に作用する薬物 (全身麻酔薬、局所麻酔薬、鎮痛薬 / 運動神経系に作用する薬、鎮静薬、抗けいれん薬 / 問題行動の治療に用いられる薬)
項目4	第19回～第24回	呼吸器系に作用する薬物 (呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬)
項目5	第25回～第30回	循環器・泌尿器に作用する薬物 (血管拡張薬(降圧薬)、心不全治療薬(強心薬)、抗不整脈薬、利尿薬)
項目6	第31回～第36回	消化器に作用する薬物 (制吐薬、制酸薬、胃粘膜保護薬 / 消化管運動促進薬、止瀉薬、瀉下薬)
項目7	第37回～第42回	消化管運動促進薬 (肝疾患の治療に用いられる薬物、腸酵素製剤)
項目8	第43回～第48回	オータコイド、代謝・内分泌系 (代表的なオータコイド、糖尿病治療薬 / 甲状腺ホルモン製剤、ステロイドホルモン製剤)
項目9	第49回～第54回	血液・免疫系に作用する薬物 (抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬(止血薬) / 非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、免疫抑制薬)
項目10	第55回～第60回	感染症薬・感染症予防・化学療法薬 (抗菌薬(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)、抗真菌薬、抗がん剤 / 駆虫薬、殺虫薬、消毒薬、化学療法薬、悪性腫瘍に用いられる薬物、抗がん剤)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物感染症学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年	単位

講義概要:
微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、
予防・治療など感染症対策の基礎を習得する。
感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。
到達目標:
寄生現象、宿主との関連性を理解し予防獣医学に貢献出来る。
主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解し飼い主様に説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	定義(感染症とは、微生物とは、寄生虫とは)
項目2	第6回～第10回	微生物(細菌、真菌、ウイルス等の分類、特性、伝播様式等)
項目3	第11回～第15回	微生物検査(検体採取と取り扱い、無菌環境下での必要な手技、無菌環境下での手技、微生物培養法、顕微鏡による観察、抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む)、薬剤感受性試験)
項目4	第16回～第20回	内部寄生虫(線虫類、条虫類、吸虫類、原虫類)
項目5	第21回～第25回	外部寄生虫(マダニ類、マダニ類以外のダニ類、昆虫類)
項目6	第26回～第30回	線虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (回虫類、鉤虫、鞭虫、糞線虫、東洋眼虫、猫毛細線虫、猫胃虫、犬糸状虫)
項目7	第31回～第35回	条虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (瓜実条虫、マンソン裂頭条虫、猫条虫、日本海(広節)裂頭条虫)
項目8	第36回～第40回	吸虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (壺形吸虫、横川吸虫、肝吸虫、肺吸虫、宮崎肺吸虫、ウェステルマン肺吸虫、日本住血吸虫)
項目9	第41回～第45回	原虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (コクシジウム、クリプトスポリジウム、ジアルジア、トリコモナス(腸トリコモナス)、トキソプラズマ、バベシア、ヘモバルトネラ)
項目10	第46回～第50回	節足動物の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (フタトゲチマダニ、ショウコウヒゼンダニ、ツリガネチマダニ、キチマダニ、ヤマトマダニ、ツルツエマダニ)
項目11	第51回～第55回	マダニ類以外のダニ類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (ヒゼンダニ類、ミミヒゼンダニ、ニキビダニ(アカラス)、イヌツメダニ)
項目12	第56回～第60回	昆虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (イヌシラミ、ネコジラミ、イヌハジラミ、ネコハジラミ、イヌノミ、ネコノミ)
項目13	第61回～第65回	寄生虫疾患の検査、診断法、駆虫薬・駆除剤の使用法
項目14	第66回～第70回	免疫 (免疫とは、免疫応答、自然免疫、獲得免疫、抗体、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全)
項目15	第71回～第75回	ワクチン(機序、効果、プログラム、ブースター効果、狂犬病ワクチン、混合ワクチン)
項目16	第76回～第80回	消毒と滅菌(滅菌法(火炎、乾熱、高圧蒸気、濾過、ガス)、消毒法(煮沸、蒸気、各種消毒薬とその作用機序))
項目17	第81回～第85回	衛生管理(生物学的ハザード、化学的ハザード、物理的ハザード、整理・整頓・清掃・清潔)
項目18	第86回～第90回	動物感染症(感染経路と伝播様式の理解、感染症の成立要因、主な感染症、治療法、予防法)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物内科看護学	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年	単位

講義概要:
犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、
身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。
到達目標:
内科診療において、犬猫の違いを理解し、内科看護学実習で実践出来るようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	健康の保持・増進(健康診断の内容と目的)
項目2	第6回～第12回	診療補助 (愛玩動物看護師の役割、診察室の準備と衛生管理、動物種ごとの適切な接し方)
項目3	第13回～第19回	診察補助② (保定、身体検査・アセスメント/T、P、R、BW、CRT、血圧、意識レベル、粘膜色、浅在リンパ節など)
項目4	第20回～第26回	採血法 (注射器の取扱い・管理、採血方法・目的)
項目5	第27回～第33回	採尿法 (目的と方法/穿刺、カテーテルなど、穿刺と吸引、カテーテル挿入)
項目6	第34回～第40回	投薬法 (処方、内服薬の使用法、薬剤の駐車法、外用薬の使用法、薬浴の実施法、投薬前の注意事項)
項目7	第41回～第45回	輸液 (輸液の適応とリスク、輸液計画、各種輸液剤の特性と適応、輸液中のモニタリング)
項目8	第46回～第50回	輸血 (輸血の適応とリスク、輸血計画、クロスマッチ試験と血液型、輸液製剤の適応と特性、輸液手技、副反応)
項目9	第51回～第55回	酸素吸入、マイクロチップ挿入
項目10	第56回～第60回	心電図 (目的と意義、実施方法、血圧測定の方法と意義、注意点)
項目11	第61回～第65回	X線、CT、MRI (X線検査の目的と意義、防護、実施方法と撮影体位、造影検査と透視検査、フィルムの現像とデジタルX線、CT/MRIについて)
項目12	第66回～第70回	超音波検査 (目的と実施方法、保定体位、Bモード・Mモード・ドップラー法)
項目13	第71回～第75回	内視鏡 (目的と意義、実施法違反、準備事項)
項目14	第76回～第80回	神経学的検査 (姿勢反応と脊髄反射、脳神経検査法、神経学的検査の評価記録法)
項目15	第81回～第85回	眼科検査 (シルマー、フルオレセイン、眼圧測定)
項目16	第86回～第90回	皮膚と耳検査 (皮膚病変の観察と記録法、皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検、ウッド灯検査、真菌培養、外耳道検査の検査法と意義)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護師として動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物外科看護学	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。
到達目標:
手術関連業務、外科手術に必要な術前準備から術中・術後管理までの流れを系統的に理解し、外科看護実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第9回	外傷・創傷管理(創傷の種類と治癒過程、管理方法、ドレーン装着と管理、止血法、骨折・脱臼の管理)
項目2	第10回～第18回	術前準備(術前手続き、術前検査、無菌的処置の重要性、手術衣、タオル、ドレープ、滅菌法、器具の準備・滅菌、機器類の準備、器械台の準備、動物のポジショニング、術野の消毒、手洗い、手術着・手袋装着法)
項目3	第19回～第27回	麻酔(愛玩動物看護師の役割、麻酔リスクの評価、麻酔前投与、注射麻酔・吸入麻酔の手技、導入時・覚醒時のリスクと対処、麻酔監視項目の監視方法、意義、麻酔記録の作成)
項目4	第28回～第36回	術中補助(手術器具の名称と使用法、縫合材の分類と使用法、歯科器具の名称と使用法、直接補助・間接補助の内容)
項目5	第37回～第44回	術後管理(麻酔覚醒後の動物のモニタリング、疼痛管理の意義と方法、術創管理と包帯法、退院時の注意点と飼い主への説明事項、褥瘡の予防及び対処法)
項目6	第45回～第52回	救命救急(エマージェンシーの原因と病態、一時救急措置・二次救急措置、気管挿管と心肺蘇生の方法)
項目7	第53回～第60回	動物理学療法(目的と意義、原理と手技)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護師として動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物臨床看護学 総論	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。
到達目標:
個体観察や飼い主情報など様々な観点からの情報収集の必要性を理解出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	事例
項目2	第6回～第10回	動物看護過程（動物看護過程の目的や意義、方法を理解する／動物看護過程の各ステップについて理解する／アセスメントについて理解する／事例ごとの個性性、情報の整理と解釈について理解する／問題の明確化、動物看護計画の立案について理解する／動物看護過程の実施、評価について理解する）
項目3	第11回～第15回	診療記録（診療録(カルテ)の作成方法について理解する／動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する）
項目4	第16回～第20回	動物看護業務(チーム獣医療における動物看護師の役割を理解する／ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する／事故管理、防止システムについて理解する)
項目5	第21回～第25回	動物看護業務(若齢動物看護の特徴について理解する／高齢動物看護の特徴、認知障害や褥瘡について理解する／家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する)
項目6	第26回～第30回	ターミナルケアに関わる技術(ターミナルケアの目的と意義について理解する／QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する／グリーフケアについて理解する／死亡した動物への対応、エンゼルケアについて理解する)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物臨床検査学	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	臨床検査の基礎(臨床検査における愛玩動物看護師の役割、基準値、感度、特異度、精度管理、検体採取法)
項目2	第5回～第8回	血液検査(血漿、血清の分離法、全血球計算法、血液塗抹の作製・観察法、HT管検査)
項目3	第9回～第12回	血液検査(凝固検査、血液化学検査、血液ガス検査、免疫学的検査)
項目4	第13回～第16回	尿検査(性状検査、尿沈渣)
項目5	第17回～第20回	糞便検査(虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法)
項目6	第21回～第25回	細胞診と病理組織検査(細胞診断、病理組織検査のための検体の取り扱い)
項目7	第26回～第30回	遺伝子検査(目的と応用例、検体の採取および取り扱い)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護師として動物病院での経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	動物生活環境学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、
ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故や怪我等のリスクを
除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解する
到達目標:
ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解し、実践できる

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	飼養環境整備(動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法)
項目2	第3回～第4回	飼養環境整備(ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法)
項目3	第5回～第6回	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン(ペットツーリズム/現状と実施方法、宿泊ホテルの環境整備・管理方法、ドッグラン/環境整備・管理方法)(ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興)
項目4	第7回～第9回	保護収容施設(動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理方法、シェルターメディスン)
項目5	第10回～第12回	保護収容施設(動物愛護センターの役割、施設の概要、普及啓発活動)
項目6	第13回～第15回	ペットへの教育・訓練施設(動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等)
項目7	第16回～第18回	動物介在教育施設(学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法)
項目8	第19回～第21回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(飼育マナーの必要性、目的、歴史、地域における飼育マナーの違い)
項目9	第22回～第24回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例)
項目10	第25回～第27回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(愛玩動物の種類別に必要とされる飼育マナー)
項目11	第28回～第30回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(ペット保険の仕組みと実態)

成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院において 動物看護師およびトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 2年	科 目 名 動物臨床検査学実習	教員氏名 延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数 60 時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	検体採取、処理の手順
項目2	第6回～第10回	マイクロピペットや遠心分離器の使用、操作
項目3	第11回～第15回	血漿、血清の分離
項目4	第16回～第21回	血液塗沫標本作成、染色
項目5	第22回～第27回	血液塗沫標本の観察、白血球の分類
項目6	第28回～第33回	全血球計算および血液化学検査の実施
項目7	第34回～第39回	簡易血清学的検査の実施
項目8	第40回～第45回	尿検査を実施、物理化学性状の記録
項目9	第46回～第51回	尿沈渣を観察、所見の記録
項目10	第52回～第56回	糞便検査の実施、虫卵および原虫の検出
項目11	第57回～第60回	細胞診の準備、補助
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物医療コミュニケーション	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。
到達目標:
動物診療現場における受付で発生する飼い主対応、接遇をすることが出来る
動物診療現場におけるクライアントやスタッフとの状況に応じたコミュニケーションを取ることが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	クライアントエデュケーション(適正飼養の理解、健康管理のための必要な情報を飼い主に提供できる)
項目2	第7回～第12回	クライアントエデュケーション(動物と飼い主の良好な関係の構築方法について理解)
項目3	第13回～第18回	クライアントエデュケーション(病気の適切な予防法、在宅看護時のコミュニケーション技能)
項目4	第19回～第24回	院内コミュニケーション(インフォームドコンセントについて理解する。獣医療面接のプロセスを理解する、チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する)
項目5	第25回～第30回	院内業務(受付、物品購入・管理、ペット保険)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	適正飼養指導論	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。
到達目標:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解し、啓発できる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	愛玩動物の飼養(適正飼養の目的、概念について、現状について)
項目2	第5回～第8回	愛玩動物の飼養(飼養によって人間が受ける影響と問題点、飼養のニーズや目的の理解と共に、グリーフケア、ペットロスについて概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する)
項目3	第9回～第12回	適正飼養の推進(支援の目的と活動について理解、動物取扱業者における適正飼養について理解)
項目4	第13回～第16回	適正飼養の推進(過剰繁殖の問題とその対策についての理解、問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解)
項目5	第17回～第20回	災害危機管理と支援(同行避難の重要性、愛玩動物とその飼い主の災害と備え、災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割)
項目6	第21回～第25回	動物愛護管理行政(公衆衛生における愛玩動物看護師の役割、動物愛護週間の役割と実施状況、犬猫の引き取りおよび負傷動物などの収容並びに処分の状況)
項目7	第26回～第30回	動物愛護管理行政(動物による事故の内容と報告状況、動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割、動物取扱責任者の選任条件と役割)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	ペット関連産業概論	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ
到達目標:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を身につける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第7回	ペット関連産業における職業倫理(責任と社会的役割、商取引における関連法規の概要理解、動物の愛護および管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法の理解)
項目2	第8回～第14回	ペットの飼養実態と市場規模(ペットの飼養実態およびペット関連産業の概要、市場規模について理解)
項目3	第15回～第22回	各ペット関連産業の現状と課題(ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題の理解)
項目4	第23回～第30回	動物取扱業(動物取扱業制度の概要、動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取り扱い方法や衛生管理に係る手法の理解)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物臨床看護学実習	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻、5巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
臨床現場において必要な看護過程を理解し、実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物看護過程の実践(事例演習) (動物看護アプローチの個性、看護動物の生活環境が健康に及ぼす影響、症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響)
項目2	第11回～第20回	動物看護過程の実践(事例演習) (看護上の問題を理解し、優先順位をつける)
項目3	第21回～第30回	動物看護過程の実践(事例演習) (看護動物の援助の内容・方法の立案、動物看護計画作成、動物看護記録作成)
項目4	第31回～第40回	入院及び栄養管理(入院動物の管理、アセスメント)
項目5	第41回～第50回	入院及び栄養管理(ケージの掃除、管理、ペインスケールを用いて痛みの程度を評価)
項目6	第51回～第60回	入院及び栄養管理(栄養チューブ設置の準備や流動食の調製、褥瘡を持つ動物の看護など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物看護総合実習	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	180時間/年	単 位

講義概要:
動物病院で実際の動物診療業務に参加し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。
診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を習得する
到達目標:
身に付けた知識や技術を発揮し、実習先からより実践的な経験や知識・技術、社会人としての一般常識を身に付ける

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物看護業務の理解
項目2	第11回～第90回	動物看護業務の体験
項目3	第91回～第180回	動物看護業務の実践
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物臨床看護学 各論	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数	単 位 数
	120時間/年	単位

講義概要:
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。
各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。
到達目標:
書く疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個体情報の分析からその症例にあった動物看護が出来るようになる
主な疾患の回復に必要な事項を説明出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第18回	徴候や疾患の理解と対処(徴候・病態・疾患の理解、徴候の評価と記録法、痛みの評価、徴候・疾患に基づく援助)
項目2	第19回～第35回	代表的な徴候(全身徴候、特異的徴候、特異的病態)
項目3	第36回～第52回	代表的な疾患(循環器疾患、呼吸器疾患、消化器・栄養代謝性疾患、泌尿器疾患、内分泌疾患)
項目4	第53回～第69回	代表的な疾患(生殖器疾患、整形外科疾患、皮膚疾患、神経疾患、眼疾患)
項目5	第70回～第86回	代表的な疾患(造血器・免疫介在性疾患、緊急疾患)
項目6	第87回～第103回	担当がん動物の看護(がん診断のための検査と治療の手順、腫瘍随伴症候群の理解)
項目7	第104回～第120回	担当がん動物の看護(看護援助、治療と化学療法の副作用について)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 3年	科 目 名 動物内科看護学実習	教員氏名 延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻	授業時間数 120時間/年	単 位 数 単位

講義概要:
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識と技術を実践する

授 業 計 画

項目1	第1回～第16回	身体検査(全身状態の評価、バイタルサインの評価)
項目2	第17回～第32回	診察補助(診察の準備や診察室の衛生管理、基本的保定の実施、聴診器や体温計・注射器の適切な取り扱い)
項目3	第33回～第48回	診察補助(採血・採尿の手順習得、薬剤の取り扱い、経口投与・注射の手順習得)
項目4	第49回～第64回	輸血・輸液に関わる技術(留置針設置の手順習得、準備、補助、輸液ポンプ、シリンジポンプの使用、輸液・輸血中の動物の管理)
項目5	第65回～第80回	マイクロチップ(適切な挿入部位の理解、装着手順の習得)
項目6	第81回～第100回	生体検査(心電図検査の実施、結果の記録、レントゲン撮影のための基本的保定、放射線防護のための装備、超音波検査の基本的保定、神経学的検査の所見記録)
項目7	第101回～第120回	生体検査(眼科検査の補助、皮膚検査の補助、外耳道検査の補助)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物外科看護学実習	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト4巻	授業時間数	単 位 数
	90時間/年	単 位

講義概要:
手術準備や術中・術後管理など、麻酔準備や麻酔監視、手術補助、救命救急など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
動物外科看護学で学んだ内容を実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第18回	手術準備(手術器具の準備、滅菌、手術衣、タオル・ドレープ類を準備、滅菌、手術に必要な機器、器械台の準備、手術台への動物の固定、術野の消毒、手洗い、手術衣や手袋装着)
項目2	第19回～第36回	術中補助(麻酔器の各部名称、使用法の理解、指示に従った操作、モニター接続、術中監視)
項目3	第37回～第54回	術中補助(麻酔記録作成、直接補助、間接補助、歯科器具の取り扱い、歯科処置補助)
項目4	第55回～第72回	術後管理(創傷管理、包帯装着、抜糸補助)
項目5	第73回～第90回	救急救命(機材、薬剤の迅速な準備、気管挿管の補助、心肺蘇生の手順習得)

成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 通年	科 目 名 経営学・ビジネススキル	教員氏名 豊實祐之(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 15 時間/年 全45回	単 位 数 単 位

講義概要:
社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する
到達目標:
1人1人が自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。

授 業 計 画

項目1	全45回	自己分析、自己紹介
項目2		他者理解、他己紹介
項目3		履歴書の書き方
項目4		電話のかけ方
項目5		企業研究
項目6		面接対策
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は一般企業において総合職の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 通年	ボランティア学	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年 全45回	単 位

講義概要:
動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。
また、周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する
到達目標:
主体的に考え、慈善事業に対して利他の精神で活動出来るようになる。

授 業 計 画

項目 1	全45回	主体性とは(主体性と自主性の違い、ボランティアの意義について)
項目 2		地域清掃ボランティア(普段通学する道を清掃する)
項目 3		愛護センターイベントボランティア(愛護センターで開かれるイベントのお手伝いを行う)
項目 4		グループワーク(自分たちに出来る活動を考え、実践する)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所において動物保護活動やセラピー犬活動に従事した経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	飼育管理学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標:
犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅰ、Ⅱ」にて行うことが出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物飼育実習 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
実際に動物を世話することで観察力と動物福祉の精神を養う。また、衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力を身に付ける。
到達目標:
個体別の生活様式から正常と異常を見極め、各動物の飼育の仕方などを説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	飼育動物について(本校にいる飼育動物について理解する)
項目2	第3回～第4回	犬の飼育
項目3	第5回～第6回	猫の飼育
項目4	第7回～第8回	ウサギの飼育
項目5	第9回～第10回	ハムスターの飼育
項目6	第11回～第12回	モルモットの飼育
項目7	第13回～第14回	フェレットの飼育
項目8	第15回～第16回	ハリネズミの飼育
項目9	第17回～第18回	チンチラの飼育
項目10	第19回～第20回	小鳥の飼育
項目11	第21回～第30回	トレーニング
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	動物飼育実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物飼育実習Ⅰに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
到達目標:
適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。

授 業 計 画

項目1	第1回～第7回	動物福祉を意識した飼育
項目2	第8回～第14回	チームを意識した飼育
項目3	第15回～第22回	コミュニケーション力を活かした飼育
項目4	第23回～第30回	観察力を高める飼育
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	グルーミング学I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	15時間/年	単位

講義概要:
①グルーミングとは何か、グルーマーとしてのグルーマーの基本、基礎、身に付けておくべき知識を学ぶ。
②道具の正しい使い方、正しいお手入れの方法を学ぶ
③犬の体の基礎を学び、皮膚や被毛に対するお手入れの方法を学ぶ
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回	グルーミングとは何か(歴史と役割)
項目2	第2回	グルーミング用語について
項目3	第3回	トリミングの環境(安全性と公衆衛生)
項目4	第4回	トリマーの見出しなみ、健康管理について
項目5	第5回	グルーミングツールについて(種類)
項目6	第6回	グルーミングツールの正しい使い方とお手入れ方法について
項目7	第7回	犬の体の基礎について(骨格名称、犬体名称)
項目8	第8回	犬の皮膚について(構造、役割)
項目9	第9回	犬の被毛について(基礎知識、タイプ、構造)
項目10	第10回	犬の日常的なケアについて(目、爪、歯のお手入れ)
項目11	第11回	トリミング時の保定について
項目12	第12回	爪切り、足裏クリッピング、耳掃除について
項目13	第13回	ブラッシングについて
項目14	第14回	シャンプーとドライイングについて
項目15	第15回	商品学(グルーミング時に使うシャンプー剤などについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	グルーミング学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年	単位

講義概要:一年時に学んだ基礎を踏まえて、犬種に応じたペットクリップ、ショークリップなどに関する高い知識の習得
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回	グルーミングの必要性和トリマーの心得
項目2	第2回	トリミングのイメージの作り方と描き方
項目3	第3回	犬体用語について①
項目4	第4回	犬体用語について②
項目5	第5回	グルーミング用語について
項目6	第6回	皮膚と被毛について
項目7	第7回	犬のドッグショーの歴史
項目8	第8回	ショークリップについて(目的に応じたショークリップについて)
項目9	第9回	プードルのショークリップについて
項目10	第10回	ショー用語について
項目11	第11回	ショーで使う道具について
項目12	第12回	ショーにおける犬の扱いかた、お手入れについて
項目13	第13回	シザーリング犬種のグルーミングについて
項目14	第14回	スイニング犬種のグルーミングについて
項目15	第15回	ブラッキング犬種のグルーミングについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 3年	科 目 名 グルーミング学Ⅲ	教員氏名 山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数 30時間/年	単 位 数 単 位

講義概要:
個体毎のライフステージにあわせたグルーミングについて理解する
到達目標:
パピーから老犬までそれぞれにあった負担の少ないグルーミングを学ぶ

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	ファーストリミングについて
項目2	第6回～第9回	パピー時におけるトリミングについて
項目3	第10回～第13回	成長期におけるトリミングについて
項目4	第14回～第18回	維持期におけるトリミングについて
項目5	第19回～第22回	衰退期におけるトリミングについて
項目6	第23回～第26回	老齢犬のトリミングについて
項目7	第27回～第30回	疾患持ちの犬のトリミングについて
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	グルーミング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90時間/年 全90回	単位

講義概要:実習を通してベーシックの基本の技術を習得し、時間内にカットまで仕上げ、C級ライセンス取得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全90回	【モデルグルーミング】・爪切り・足裏のクリッピング・耳掃除・シャンプー・ドライング
項目2		【ベーシック実習】・ベーシックと足回りのカットのみ
項目3		【モデルグルーミング】・ボディのクリッピング・四肢のカット(ハサミ仕上げ)・顔のカット
項目4		【リボン製作とラッピングについて】
項目5		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって 接客実習を行う
項目6		【トリミング実習】・全身カット時間内に一頭仕上げられる
項目7		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目8		【ショークリップについて】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	グルーミング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全90回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって接客実習を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使っのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭仕上げられる
項目5		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目6		【B級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	グルーミング実習Ⅲ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全90回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生への指導を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使つてのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して時間内に仕上げられる
項目5		【A級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで時間内に行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	犬種別ペットクリップ I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単位

講義概要: 犬種のそれぞれ特徴を理解し、お客様の要望を踏まえ、その犬種にあったペットクリップを実践で学ぶ
到達目標:
各犬種のカット法を理解した上で仕上げられるようになる

授 業 計 画

項目1	全90回	【チワワ、ダックス、パピヨン、シェルティ、キャバリアなどの犬種の飾り毛のカット】
項目2		【トイ・プードルのテディベアカット】
項目3		【トイ・プードルのラム＆ケネルクリップ】
項目4		【ポメラニアンのペットカット】
項目5		【シーズーのペットカット】
項目6		【マルチーズのペットカット】
項目7		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目8		【ビション・フリーゼのペットカット】
項目9		【ミニチュア・シュナウザーのペットカット】
項目10		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	犬種別ペットクリップⅡ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単 位

講義概要:犬種の特性を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標:
犬種別ペットクリップⅠの内容に早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる

授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティペアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのパジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアンの子カット】
項目8		【シーズーの子カット】
項目9		【マルチーズの子カット】
項目10		【ヨークシャー・テリアの子カット】
項目11	全120回	【ビション・フリーゼの子カット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーの子カット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルの子カット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルの子カット】
項目15		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアの子クリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの子クリップ】
項目18		【ケアンテリアの子・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアの子クリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアの子クリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアの子クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	犬種別ペットクリップⅢ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数 60 時間/年 全60回	単 位 数 単 位

講義概要:犬種の特性を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標:
犬種別ペットクリップⅡの内容にさらに早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる
個体毎の特徴を理解し、その個体にあったカットに仕上げる

授 業 計 画

項目1	全60回	【トイ・プードルのティペアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム＆ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアンの子カット】
項目8		【シーズーの子カット】
項目9		【マルチーズの子カット】
項目10		【ヨークシャー・テリアの子カット】
項目11		【ビション・フリーゼの子カット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーの子カット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルの子カット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルの子カット】
項目15		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアの子クリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの子クリップ】
項目18		【ケアンテリアの子・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアの子クリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアの子クリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアの子クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	犬種別ショークリップ1	大栗里美(実務経験あり)
教科書名:スタンダードスタイル	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単 位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
到達目標:
各犬種のショークリップを理解し、仕上げられるようになる。

授 業 計 画

項目1	全120回	【トイ・プードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュнауザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップペット・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショークリップ】
項目14		【ウェルツシュ・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	犬種別ショークリップⅡ	大栗里美(実務経験あり)
教科書名:スタンダードスタイル	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年 全60回	単 位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
多種多様の犬種のショークリップの実習を行い、幅広く、多様性に対応できる技術の習得を目指す
到達目標:
各犬種のショークリップを理解し、より素早くキレイに仕上げられるようになる

授 業 計 画

項目 1	全60回	【トイ・プードルのコンチネンタル・クリップ】
項目 2		【トイプードルのパピークリップ】
項目 3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目 4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目 5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目 6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目 7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目 8		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエルのショー・クリップ】
項目 9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目 10		【ウェスト・ハイランド・ホワイต์・テリアのショー・クリップ】
項目 11		【ケアンテリアのショー・クリップ】
項目 12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目 13		【ワイアー・フォックス・テリアのショー・クリップ】
項目 14		【ウェルッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目 15		【ベドリントン・テリアのショー・クリップ】
項目 16		【ケリー・ブルー・テリアのショー・クリップ】
項目 17		【エアードール・テリアのショー・クリップ】
項目 18		【レークランド・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	ハンドリング学I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
ドッグショーについて理解し、犬の見せ方を実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーの歴史
項目2	第3回～第4回	犬に関する基礎知識(習性、心理、行動)
項目3	第5回～第6回	犬の体構造
項目4	第7回～第8回	ハンドリングの審査について
項目5	第9回～第10回	ハンドリングとは
項目6	第11回～第12回	スタックについて(テーブルでのスタックについて、テーブルでのフリースタンディングについて)
項目7	第13回～第14回	小型犬のスタックについて
項目8	第15回～第16回	大型犬のスタックについて(犬の正面におけるフリースタンディングについて)
項目9	第17回～第18回	リードのかけ方(種類、用途)、リードの持ち方
項目10	第19回～第20回	ムーブメント①歩様とアンギュレーション
項目11	第21回～第22回	ムーブメント②歩速とステップ
項目12	第23回～第24回	歩行について①トライアングルによる犬の見せ方 ②アップ&ダウンによる犬の見せ方
項目13	第25回～第26回	歩行パターンについて(トライアングル、アップ&ダウン、リング一周、L字、T字など)
項目14	第27回～第28回	歯の見せ方について、耳の正しいセットについて
項目15	第29回～第30回	リードワークについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陳経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	ハンドリング学Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
犬種ごとのスタンダードの知識を深め、ショーのためのグルーミングの必要性を学び、各犬種の見せ方、ハンドリングの技術の習得を目指す

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて①(パウダーリング、ラッピング)
項目2	第3回～第4回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて②(ブラシング、飾り毛のカット)
項目3	第5回～第6回	テイルセットについて
項目4	第7回～第8回	ドッグ・ショーでのマナーとルール
項目5	第9回～第10回	審査を受けるときのマナーとテクニック
項目6	第11回～第12回	ドッグ・ショーにおけるパピートレーニングについて
項目7	第13回～第14回	各犬種の見せ方①シェパード・シープ・ドッグ
項目8	第15回～第16回	各犬種の見せ方②ミニチュア・シュナウザー
項目9	第17回～第18回	各犬種の見せ方③ヨークシャー・テリア
項目10	第19回～第20回	各犬種の見せ方④ミニチュア・ダックス・フンド
項目11	第21回～第22回	各犬種の見せ方⑤アメリカン・コッカー・スパニエル
項目12	第23回～第24回	各犬種の見せ方⑥ゴールデン・レトリバー
項目13	第25回～第26回	各犬種の見せ方⑦トイ・プードル、ミニチュア・プードル
項目14	第27回～第28回	各犬種の見せ方⑧パピヨン
項目15	第29回～第30回	各犬種の見せ方⑨マルチーズ、シーズー
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陣経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	ペット造形学・美学 I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単位

講義概要:
ペット犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第30回	シーザーのデッサン
項目2	第31回～第40回	犬体模型の作製(画用紙)
項目3	第41回～第50回	犬体模型の作製(粘土)
項目4	第51回～第60回	犬体模型の作製(羊毛フェルト)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	ペット造形学・美学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	全30回	トイプードルのコンチネンタル・クリップ デッサン
項目2		トイプードルのパピークリップ デッサン
項目3		トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ デッサン
項目4		ビション・フリーゼのショー・クリップ デッサン
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	ドッグトレーニング理論 I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:オオカミとの比較から犬が家畜化される過程の習熟を図り、ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。 脳と行動の関係について理解するとともに動物行動学に沿った具体的なトレーニング方法の選択・組み立て方を身に付ける。
到達目標: 多岐にわたるトレーニング方法の種類について各特性を理解し説明することが出来る。又、トレーニングの際に必要な各道具の知識を習得し選択することができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	犬の進化と家畜化 (狼との比較、伴侶となるまでの各経緯、遺伝的素質、環境要因など)
項目2	第5回～第8回	学習の生物学的なしくみ (大脳辺縁系、大脳皮質、成長過程・去勢避妊手術の影響、雌雄ホルモン、社会的階級制度など)
項目3	第9回～第12回	行動に影響する生理物質 (神経伝達物質、脳内物質の役割、気質の3軸モデルなど)
項目4-①	第13回～第15回	犬の言葉① (聴覚・体臭・視覚によるコミュニケーション、ボディランゲージ、カーミングシグナルなど)
項目4-②	第16回～第18回	犬の言葉② (回避行動、能動的服従、受動的服従、先制攻撃型、守備防衛型など)
項目5	第19回～第22回	学習理論 (古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、感作など)
項目6	第23回～第26回	トレーニング方法 (強制トレーニング、直接誘導法、ルアー誘導法、キャッチング、シェーピング、逆行連鎖、ターゲットなど)
項目7	第27回～第30回	犬具 (ハーフチョーク、チョークチェーン、ピンチカラー、リミテッド・スリッカラー、ジェントル・リーダー、イージーウォークハーネス等の各使用方法・装着方法・注意点・得られる効果など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	ドッグトレーニング理論Ⅱ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:犬が起こした行動からオペラント条件付けの基本的な4つの因果関係に振り分けるとともにそれらを活用した動機付けトレーニングの学習原理の知識を習得する。
到達目標:
又、犬の許容範囲を示すために存在する様々なコミュニケーション方法について判別する知識を身に付け、カーミング・シグナルを区別することができる。LEADプログラムを使用し犬との関わりに活かすことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	オペラント条件付け (正の強化、正の罰、負の強化、負の罰など)
項目2	第6回～第10回	領域 (個人空間、逃走距離、臨界距離、攻撃距離など)
項目3	第11回～第15回	カーミングシグナル 静止画、動画、実物の犬をよく観察しカーミング・シグナルを見分けるなど)
項目4	第16回～第20回	LEADプログラム (注意の引き付け方、食事の管理、ゲームの管理、領域の支配など)
項目5-①	第21回～第23回	学習理論① (一次性強化子、二次性強化子、消去、自然回復、トレーニングのABC、オーバーシャドーイング、般化、ブレマックの原理)
項目5-②	第24回～第25回	学習理論② (拮抗条件付け、系統的脱感作、鋭敏化など)
項目6	第26回～第30回	犬の行動を安定させるための4つのD (距離、継続時間、多様性、報酬の配分など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年 愛玩動物看護学科 3年	科 目 名 ドッグトレーニング理論Ⅲ	教員氏名 桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数 60時間/年	単 位 数 単位

講義概要: 問題行動と呼ばれる犬が起こす行動を分析し、原因の究明に努める。
到達目標: 問題行動の種類・改善方法・予防方法の知識を身につけ実践できる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	問題行動の種類 (攻撃行動、破壊行動、排泄のコントロール、吠えのコントロールなど)
項目2	第11回～第20回	問題行動を起こす原因 (生活環境、犬種、年齢、性別、性格、既往歴など)
項目3	第21回～第30回	改善方法① (環境改善、陽性強化、嫌悪刺激を用いた方法のメリット・デメリット)
項目4	第31回～第40回	改善方法② (系統的脱感作(応用)、拮抗条件付け(応用)、順行連鎖、逆行連鎖などの使い分け)
項目5-①	第41回～第45回	トレーニングスケジュールの組み立て① (連続強化スケジュール、変動強化スケジュール、分化強化における強化制限時間の基準など)
項目5-②	第46回～第50回	トレーニングスケジュールの組み立て② (生活環境、犬種、年齢、性別、性格、既往歴など犬や飼い主に合わせて提案)
項目6	第51回～第60回	予防トレーニング (般化と状況学習、誘惑刺激を用いた予防トレーニング、他犬とのコミュニケーション方法など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	服従訓練 I	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:指導手のコマンドに対し犬が従順に適応する基礎的な服従訓練を実践的に学ぶとともに、それらを活用した行動修正法の知識を習得する。
到達目標:
又、犬の性格・犬種・飼育環境等に合わせた行動改善修正法を判断・選択し改善に向けたトレーニングスケジュールを自身で組立てる知識を身に付ける

授 業 計 画

項目1	全90回	道具 (首輪・リード・報酬・嫌悪刺激等のトレーニングに使用する道具を使い分ける)
項目2		服従訓練 (CD I S家庭犬競技準初等科の内容)
項目3		問題行動予防法 (健康状態、環境の向上、リーダーシップ、全般的な管理など)
項目4		行動修正法 (甘噛み、トイレトレーニング、破壊行動、物を守る、防御的攻撃行動、先制的攻撃行動など)
項目5		トレーニングスケジュールの組立て (犬の性格・犬種・年齢・性別・飼育環境に沿って組立てる)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	服従訓練Ⅱ	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	150 時間/年 全150回	単 位

講義概要: 服従訓練Ⅰで学んだ知識・技術を基に訓練競技会出場に向けたより実践的な競技規則やマナーを習得する。
到達目標:
問題解決能力やトレーニング実践能力を身に付けクライアントの生活環境を基にクライアントに合った問題行動改善方法を提案・指導することができる。

授 業 計 画

項目1	全150回	服従訓練(応用) (CDⅡ 家庭犬訓練試験中等科の内容など)
項目2		訓練競技会 (競技規則、競技訓練科目、会場マナー、犬の扱いなど)
項目3		クライアント指導 (クライアントに合わせた問題行動改善方法の指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	アジリティ I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び運動能力の向上を目指す。ドッグスポーツの起源を理解するとともに、アジリティの歴史から競技概要を理解する。

到達目標:

使用する障害物の名称や組立方法を習得し安全な道具設置を身に付けるとともに各障害物のトレーニング方法を習熟する。

授 業 計 画

項目1	全90回	ドッグスポーツの概要 (アジリティ・ディスク・フライボール・ノーズワークなど)
項目2		障害物設置基準 (体高別グループ分け・障害物配置基準など)
項目3		各障害物のトレーニング方法 (陽性強化・嫌悪刺激の使い分けなど)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	アジリティⅡ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	150 時間/年 全150回	単 位

講義概要:
競技会出場に向けた審査基準を身に付けるとともにトレーニングスケジュールを組み実践する。制限時間内に
コースの順番を記憶し人間の立ち位置・犬の走行ルートを考案する。
到達目標:
アジリティⅠで学んだ知識・技術を基により実践的な犬種・年齢等に合わせたアジリティトレーニングを習得し実践することができる。

授 業 計 画

項目1	全150回	競技会の審査基準 (障害物の種類・規定時間・科目規定など)
項目2		検分 (立ち位置、走行ルート、障害物記憶など)
項目3		トレーニングスケジュールの組立 (細分化した目標設定、犬種・年齢・性格を考慮した組立て方など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 1年	総合トレーニング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	120時間/年	単位

講義概要: 総合トレーニング実習 I では、「聴く力」「伝える力」「指導する力」を要するインストラクションスキルを身に付け、クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

到達目標:

クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

授 業 計 画

項目1	全120回	インストラクションスキル (題材の選定・目標の把握・展開順序・指導能力など)
項目2		カウンセリングスキル (カウンセリングの基本姿勢・傾聴・繰り返し技法・信頼関係の構築方法など)
項目3		クライアントに合わせたトレーニングスケジュールの組方 (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮したトレーニングスケジュールの組立て方など)
項目4		クライアント指導(基礎) (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮した指導など)

成績評価方法

・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。

備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)

特記事項

担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 2年	総合トレーニング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単位

講義概要:
犬を使ったデモンストレーション技術を身に付けるとともにしつけ教室開催に向けた知識を習得する。
到達目標:
総合トレーニング実習Ⅰの知識・技術を基にカウンセリングからクライアントの要望に合わせたトレーニングを提案できる。

授 業 計 画

項目1	全120回	デモンストレーション実施 (説明・実演など)
項目2		しつけ教室開催にむけて (企画・運営など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・コース名・学年	科 目 名	教員氏名
愛玩動物看護学科 3年	総合トレーニング実習Ⅲ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単位

講義概要:
人とのコミュニケーションスキルを身につけ、企画・運営を実施する。
到達目標:
実践を通して、トレーニング技術や情報を効果的に伝えるコミュニケーションスキルを上げていく。

授 業 計 画

項目1	全90回	しつけ教室(グループレッスン)開催 (企画・運営など)
項目2		しつけ教室(プライベートレッスン)開催 (企画・運営など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

別表1 ペットマイスター学科

1年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
生命倫理・動物福祉	○	30	○
動物形態機能学	○	120	○
動物繁殖学	○	30	○
動物行動学	○	30	○
動物栄養学	○	60	○
公衆衛生学	○	60	○
愛玩動物学	○	60	○
人と動物の関係学	○	30	○
グルーミング学Ⅰ	○	30	○
グルーミング実習Ⅰ	○	90	○
ドッグトレーニング理論Ⅰ	○	30	○
総合トレーニング実習Ⅰ	○	90	○
飼育管理学Ⅰ	○	30	○
動物飼育実習Ⅰ	○	90	○
動物保護学概論	○	30	○
動物福祉学Ⅰ	○	30	○
動物保全学Ⅰ	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
必須受講時間	900		
犬種別ペットクリップⅠ	△	90	○
ハンドリング学Ⅰ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅰ	△	60	○
動物薬理学	△	60	○
動物生活環境学	△	30	○
動物臨床検査学	△	30	○
動物臨床検査学実習	△	60	○
服従訓練Ⅰ	△	90	○
アジリティⅠ	△	90	○
動物園学Ⅰ	△	30	○
生物分類学Ⅰ	△	30	○
動物展示学・実習Ⅰ	△	120	○
必須受講時間	180		
合 計	1080		

2年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
動物病理学	○	30	○
適正飼養指導論	○	60	○
動物看護関連法規	○	15	○
動物愛護・適正飼養関連法規	○	15	○
比較動物学	○	60	○
動物感染症学	○	90	○
動物愛護・適正飼養実習	○	60	○
ペット関連産業概論	○	30	○
グルーミング学Ⅱ	○	30	○
ドッグトレーニング理論Ⅱ	○	30	○
飼育管理学Ⅱ	○	30	○
動物福祉学Ⅱ	○	30	○
動物保全学Ⅱ	○	30	○
経営学・ビジネススキル	○	15	○
ボランティア学	○	15	○
必須受講時間	540		
グルーミング実習Ⅱ	△	180	○
犬種別ショークリップⅠ	△	180	○
犬種別ペットクリップⅡ	△	120	○
ハンドリング学Ⅱ	△	30	○
ペット造形学・美学Ⅱ	△	30	○
総合トレーニング実習Ⅱ	△	180	○
服従訓練Ⅱ	△	180	○
アジリティⅡ	△	180	○
動物飼育実習Ⅱ	△	120	○
動物園学Ⅱ	△	30	○
生物分類学Ⅱ	△	30	○
動物展示学・実習Ⅱ	△	180	○
アニマルトレーニング実習	△	180	○
必須受講時間	540		
合 計	1080		

3年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
グルーミング学Ⅲ	○	30	○
グルーミング実習Ⅲ	○	120	○
犬種別ペットクリップⅢ	○	30	○
犬種別ショークリップⅡ	○	30	○
動物福祉実習Ⅰ	○	120	○
ボランティア学	○	30	○
学生指導実習	○	120	○
必須受講時間		480	
トリミングサロン実習	△	600	○
ドッグトレーニング実習	△	600	○
動物飼育実習Ⅲ	△	600	○
必須受講時間		600	
合 計		1080	

4年次			
科目名	必須・選択の別 必須：○ 選択：△	授業 時間数	担当教員 実務経験 有無
グルーミング学Ⅳ	○	30	○
グルーミング実習Ⅳ	○	120	○
動物福祉実習Ⅱ	○	120	○
ボランティア学	○	30	○
学生指導実習	○	180	○
必須受講時間		480	
トリミングサロン実習	△	600	○
ドッグトレーニング実習	△	600	○
動物飼育実習Ⅳ	△	600	○
必須受講時間		600	
合 計		1080	

【実務経験のある教員による授業時数】

4年間合計 4320時間

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	生命倫理・動物福祉	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	生命倫理の概念 (考え方について、獣医療との関わりについて)
項目2	第4回～第7回	動物福祉の概念(福祉の意味、動物の福祉、5つの自由、世界と日本における近代および現代の動物愛護運動について)
項目3	第8回～第12回	動物福祉の歴史(「動物の権利」「動物福祉」思想や課題について、動物福祉の生理学的指標および行動的指標による評価法について、安楽死の考え方について)
項目4	第13回～第16回	愛玩動物の福祉(適正飼育と福祉上の問題、国内外の動物保護活動の現状と課題、飼育法規や殺処分問題・対策について)
項目5	第17回～第20回	愛玩動物の福祉(動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状・対策、災害時の対応)
項目6	第21回～第24回	産業動物の福祉(福祉上の問題、国際的な福祉基準、産業動物の福祉を向上させるための具体的方法)
項目7	第25回～第27回	実験動物の福祉(福祉上の問題、3Rの概念と具体的方法)
項目8	第28回～第30回	展示動物の福祉(福祉上の問題、環境エンリッチメントの種類と内容)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は実験施設、動物園、豚舎において動物福祉を意識した飼育の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物形態機能学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単位

講義概要:
動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。
到達目標:
正常な動物の様々な部分の形態を知り、機能や薬物の作用などの基礎を身に付け、異常との違いに気付くことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第8回	生命の基本構造 (細胞、組織、遺伝子、生体を構成する要素、体液、電解質、血漿タンパク質、細胞成分、血液成分、など)
項目2	第9回～第16回	骨格 (各骨格の位置、椎骨式、生体の位置と方向を表す用語、名称、基本構造、機能、骨膜、骨髓、関節、韧带、関節包、半月板、捻挫、脱臼、血中Ca濃度、リンの機能、骨の成長、など)
項目3	第17回～第24回	筋肉(分類と役割)
項目4	第25回～第32回	皮膚 (構造、生理学、グルーミングの重要性、犬猫が皮膚病になりやすい理由、アレルギー性皮膚炎、皮膚真菌症、など)
項目5	第33回～第40回	血液系 (血液の成分、リンパ管系、リンパ節、胸管、胸腺、浮腫、造血、など)
項目6-1	第41回～第44回	循環器① (役割、体循環、肺循環、動脈と静脈、血圧と血流、血圧の変動、心臓・肺の構造と機能、心臓の働く仕組み、心電図、心音と血流の関係、主要な動脈・静脈系、など)
項目6-2	第45回～第48回	循環器② (僧帽弁閉鎖不全、フィラリア症、胎仔循環、心室中隔欠損症、動脈管開存症、門脈循環、肝門脈系、など)
項目7	第49回～第56回	呼吸器 (役割、鼻腔、喉頭、喉頭蓋、発声器、咽頭、気管、気管支、肺、脳構造、生理学、換気のしくみ、代表的疾患/呼吸困難、一般的な臨床症状、鼻汁、咳、軟口蓋過長、肺炎、気管虚脱/、など)
項目8	第57回～第64回	消化器 (構造、役割・働き、咀嚼、唾液腺、嚥下、誤嚥、各消化腺・分泌液/膵液、胆汁、腸液/、肝臓の働き、下痢と嘔吐、消化器系疾患でみられる症状、胃腸内異物、巨大食道症、肛門囊炎、など)
項目9	第65回～第72回	内分泌 (内分泌系の器官とホルモン、ホルモンの作用、特徴、疾患、など)
項目10	第73回～第80回	泌尿器 (泌尿器系の構造、役割、作用、特徴、腎不全他泌尿器系疾患、など)
項目11	第81回～第88回	神経 (構造、役割、神経細胞の興奮、神経系の分類、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系の二重支配、神経系の看護のポイント、問診とバイタルサイン、主な症状、検査、飼い主への指導、など)
項目12	第89回～第96回	生殖器 (構造、役割、雌雄の生殖器・副生殖器、精子、卵子、生殖器系ホルモン、避妊・去勢のメリット・デメリット、性周期、など) ※交配、妊娠、人工授精、妊娠動物のかんり、分娩、出産、帝王切開、新生仔管理、哺乳、等は繁殖学で行う。
項目13	第97回～第104回	感覚器 (視覚/眼球の構造、役割、眼神経、通光装置、複眼器の構造と役割、視覚の仕組み、眼疾患の一般症状/、聴覚/耳の構造、役割、平衡感覚とその仕組み、耳疾患の原因、耳垢の種類と感染症、など/、嗅覚/鼻の構造、役割、関わる神経、など/、味覚/舌の構造、役割、分泌腺、味蕾の分布、など)
項目14	第105回～第112回	ショック (原因、分類、アナフィラキシーショック、外毒素、内毒素、応急処置、など)
項目15	第113回～第120回	炎症(定義、主徴、など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の解剖や組織培養、研究の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物繁殖学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第1巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:
繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する
到達目標:
犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明出来る。繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることが出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	雄性生殖器 (オスの生殖器の構造、精子)
項目2	第3回～第4回	雌性生殖器 (メスの生殖器の構造、卵子)
項目3	第5回～第6回	ホルモン (性腺刺激ホルモン放出ホルモン、性腺刺激ホルモン(卵胞刺激ホルモン、卵胞ホルモン)、性ステロイドホルモン(アンドロゲン、エストロゲン、プロゲステロン)、その他のホルモン(オキシトシン、プロラクチン、人絨毛性性腺刺激ホルモン、妖馬血清性性腺刺激ホルモン、インヒビン、リラキシン、プロスタグランジン) 1)性腺機能の調節に関与するホルモンの働き(卵胞刺激ホルモン(間質細胞刺激ホルモン、黄体形成ホルモン)) 2)精子の形成 3)性腺刺激ホルモンによる卵巣機能の調節(メス)
項目4	第7回～第8回	性周期 (発情周期、発情周期とホルモン、それぞれの動物の発情周期、犬の発情周期、猫の発情周期、性周期に影響を及ぼすホルモン以外の要因)
項目5	第9回～第10回	交配 (性成熟、生殖周期、卵巣周期、卵胞期、排卵、黄体期、誘起排卵動物、交配適期、交配適期を知るポイント)
項目6	第11回～第12回	妊娠 (受精から分娩まで、受精とは、精子の受精能獲得、卵子の成熟、受精、胚の発育、胎盤の形成、哺乳動物の胎盤の分類、内分泌器官としての胎盤の役割、妊娠の維持、妊娠診断)
項目7	第13回～第14回	分娩 (分娩発来の兆候、子宮の変化、分娩発来の機構、母体側のホルモンの変化、分娩の経過、産褥、泌乳、新生子の生理、難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目8	第15回～第16回	新生仔管理 (出産直後、気道確保、授乳、身体検査、体重の変化、反応、温度、狼爪切除・断尾、先天性疾患、新生仔の人工保育)
項目9	第17回～第18回	遺伝子概論 (メンデルの一遺伝子雑種、不完全雄性、致死遺伝子、複対立遺伝子、二遺伝子雑種、性に関する遺伝、DNAとタンパク合成)
項目10	第19回～第20回	繁殖障害 (難産、難産の看護、胎位(正常、異常))
項目11	第21回～第22回	疾患(メス) (メスの生殖器疾患(子宮蓄膿症とその看護、子宮粘液症、卵巣腫瘍、子宮の腫瘍))
項目12	第23回～第24回	疾患(オス) (オスの生殖器疾患(前立腺肥大とその看護、前立腺のう胞、前立腺腫瘍、停留精巣、精巣腫瘍))
項目13	第25回～第26回	猫 (ネコの繁殖生理、基本用語、生成熟、生殖に関わるホルモン、発情(特徴、発情周期、兆候)、犬と猫の生殖器の比較、雄・雌の生殖器、受精・着床、胎盤と胎膜、妊娠日数と母体、胎仔の変化、妊娠・妊娠診断法、分娩)
項目14	第27回～第28回	去勢・避妊手術について理解する
項目15	第29回～第30回	人工授精について理解する
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園の付属施設において様々な動物種の繁殖や繁殖生理の研究経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物行動学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。
到達目標:
犬猫において基本的な行動の意義または機序を説明出来る
犬猫に起こる主な問題行動を理解し、その行動に対しての対応が出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物行動学の基礎(4つの問い、生得的行動と学習行動、脳による行動制御)
項目2	第6回～第10回	個体維持行動(摂食・飲水・排泄・身繕い・護身行動)
項目3	第11回～第15回	発達過程と社会行動 (発達ステージと各時期の行動学的特徴、生殖行動、コミュニケーション行動、敵対行動と神話的行動)
項目4	第16回～第20回	学習理論(行動形成、馴化と感作、古典的条件付けとオペラント条件付け、学習に影響を与える因子)
項目5	第21回～第25回	問題行動(定義と要因、攻撃行動の種類と原因と治療法、恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法、不適切な排泄行動の原因と治療法、老齢性認知機能低下の原因と症状と対応)
項目6	第26回～第30回	行動治療と予防(行動診療の進め方、コンサルテーションの方法、行動修正法と環境修正法の種類と適応、薬物療法、問題行動予防、社会化教室)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物栄養学	膳棚つぐみ(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。
到達目標:
基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違いを理解し、適切な食事管理が出来る
疾患別の療法食の栄養特性を説明出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	基礎栄養(5大栄養素、栄養要求の種差、食性、嗜好、嗜好性、摂食行動)
項目2	第4回～第10回	基礎栄養(健康維持における栄養の持つ意味、栄養素の不足、過剰症)
項目3	第11回～第17回	栄養要求量(エネルギー要求量の意味と計算法、栄養基準、ライフステージごとの栄養管理)
項目4	第18回～第24回	フードと栄養指導(ペットフードの種類、分類、ラベル表示、中毒、与えてはいけないもの、栄養状態の評価法)
項目5	第25回～第31回	フードと栄養指導(肥満の弊害と減量プログラムの作成法)
項目6	第32回～第38回	疾患と栄養(疾患時の食餌療法、療法食の特徴や効果の理解)
項目7	第39回～第44回	強制給餌と経管・静脈栄養法(強制給餌の方法と注意点)
項目8	第45回～第50回	強制給餌と経管・静脈栄養法(経管栄養法の種類と特徴、方法)
項目9	第51回～第55回	強制給餌と経管・静脈栄養法(静脈栄養法の種類と特徴、方法)
項目10	第56回～第60回	強制給餌と経管・静脈栄養法(チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 動物看護師として動物医療現場での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	公衆衛生学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単位
講義概要：		
環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標：		
公衆衛生について基本的な理念を理解し、公衆衛生の基本を考え行動出来る。		
国内外問わず、動物の輸送時や受け入れの際の公衆衛生に関わる注意点を説明出来る。		
滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を説明出来る。		

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	公衆衛生概要 (公衆衛生学の目的、動物看護における重要性、動物看護と公衆衛生、公衆衛生学における動物看護の領域、関連した活動分野、公衆衛生行政の理解、国民衛生の動向、One Healthと獣医療の関係の理解)
項目2	第5回～第7回	環境衛生 (環境衛生の歴史・背景・現在の問題点、化学物質による健康障害の理解、放射線汚染と障害について、衛生動物による人や動物への被害と対策、動物の咬傷による人への健康障害、廃棄物の取り扱い、動物の健康管理の徹底、衛生観念、飼育方法指導、動物としての接し方、)
項目3	第8回～第10回	食品衛生 (食品の安全性、食品残留剤・ホルモン剤、畜産品検査、遺伝子組み換え食品、動物用食品の衛生、食品衛生管理手法HACCP、等)
項目4	第11回～第13回	食中毒(サルモネラ、腸管出血性大腸菌感染症、カンピロバクター腸炎の原因、感染経路、症状、予防)
項目5	第14回～第16回	疫学と疾病予防 (感染の成立、分布、発生原因、流行、疫学調査法、予防、人獣共通感染症とその対策)
項目6	第17回～第20回	感染症とは (微生物、人畜共通感染症、感染の形態(顕性感染、不顕性感染、潜伏期間、キャリアー、日和見感染、)感染経路(経口感染、経皮感染、経胎盤・経乳汁)
項目7	第21回～第23回	薬剤耐性菌 (MRSA/メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、PRSP/ペニシリン耐性肺炎球菌、VRE/バンコマイシン耐性陽球菌、MDRP/多剤耐性緑膿菌、等)
項目8	第24回～第26回	衛生行政と主な関連法規 (感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、指定動物と指定感染症に関する法定検査、検査法、狂犬病予防法)
項目9	第27回～第30回	人獣共通感染症 (現状、新興・再興感染症の発生原因、伝播様式、予防対策、動物由来の主なズーノーシス(犬猫類、サル類、げっ歯類)、定義、スーノーシスを学ぶ意義)
項目10	第31回～第33回	院内感染とペットショップ内感染 (院内感染の予防対策、飼い主への日常的な指導(ワクチン接種、抗体検査、来院の際の事前連絡、家庭における管理、ズーノーシス)、待合室・診察室・入院室、ペットショップ感染の予防対策)
項目11	第34回～第37回	咬まれたり引っつかれたりして感染するズーノーシス(狂犬病、ネコ引っかき病、破傷風)の原因、感染経路、症状、予防
項目12	第38回～第41回	日常生活に関係の深いズーノーシス(トキソプラズマ症、皮膚糸状菌症、幼虫移行症、ヒト・イヌ糸状虫症、インフルエンザ、ノミ刺症、アニサキス症)の原因、感染経路、症状、予防
項目13	第42回～第45回	その他の代表的なズーノーシス (レプトスピラ症、オウム病、マダニ媒介疾患、エキノコッカス、ブルセラ症)
項目14	第46回～第49回	サルから感染するズーノーシス (細菌性赤痢、アメーバ赤痢、エボラ出血熱の原因、感染経路、症状、予防)
項目15	第50回～第53回	ウサギから感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫による皮膚炎、外傷性パストレラ、トキソプラズマ、細菌性皮膚炎、野兔病、サルモネラ、仮性結核の特徴、予防)
項目16	第54回～第57回	小型げっ歯類から感染するズーノーシス (皮膚糸状菌症、外部寄生虫感染症、サルモネラ症、大腸菌症、カンピロバクター症、レプトスピラ症、小形糸状虫症、その他の特徴、予防、飼育管理)
項目17	第58回～第60回	感染症新法における4類感染症 (クリプトスポリジウム症、ヘリコバクター・ピロリ感染症、ウシ海綿状脳症の原因、感染経路、症状、予防)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は研究施設において衛生管理に従事した経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	愛玩動物学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する
到達目標:
愛玩動物について理解し、実行、説明することができる

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	歴史と品種(犬の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング)、猫の歴史、品種、活用、被毛の手入れ(品種に適したグルーミング))
項目2	第6回～第10回	歴史と品種(代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態)
項目3	第11回～第14回	使役動物(使役動物の歴史と福祉、盲導犬・聴導犬・介助犬の歴史、現状、役割、育成、適性)
項目4	第15回～第18回	使役動物(災害補助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬などの種類と特徴、現状)
項目5	第19回～第23回	愛玩動物の飼養管理 (犬の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢、社会化訓練など)
項目6	第24回～第28回	愛玩動物の飼養管理 (猫の適切な飼養管理方法/飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目7	第29回～第30回	愛玩動物の飼養管理 (愛玩鳥の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理、避妊去勢など)
項目8	第31回～第40回	愛玩動物の飼養管理 (代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法/飼養環境、体調管理など)
項目9	第41回～第45回	動物の基本的な取り扱い(安全に散歩・運動・ふれあいの意義)
項目10	第46回～第55回	動物の基本的な取り扱い(基本的グルーミング/シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)
項目11	第56回～第60回	動物の基本的な取り扱い(適切な飼養環境やストレスの緩和方法)

成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	人と動物の関係学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。
その実態、課題等を含めて理解する。
到達目標:
HABIによる人間と動物にもたらす影響とその目的を説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	人間と動物の関わり (動物の飼育・利用の歴史、欧米と日本の動物観、関わりの違い、動物の飼育と利用の現状)
項目2	第5回～第8回	人間の福祉と愛玩動物の関わり(動物虐待と対人暴力の連動性、多頭飼育崩壊、愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵、および人間の加齢に伴う飼養困難になる様々な事情への理解)
項目3	第9回～第12回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物との接触が人間に与える身体的、心理的影響)
項目4	第13回～第16回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(目的と内容)
項目5	第17回～第20回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性)
項目6	第21回～第25回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(動物病院や愛玩動物看護師の関わり)
項目7	第26回～第30回	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育(学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物介在活動の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	グルーミング学I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
①グルーミングとは何か、グルーマーとしてのグルーマーの基本、基礎、身に着けておくべき知識を学ぶ。
②道具の正しい使い方、正しいお手入れの方法を学ぶ
③犬の体の基礎を学び、皮膚や被毛に対するお手入れの方法を学ぶ
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	グルーミングとは何か(歴史と役割)
項目2	第3回～第4回	グルーミング用語について
項目3	第5回～第6回	トリミングの環境(安全性と公衆衛生)
項目4	第7回～第8回	トリマーの見出しなみ、健康管理について
項目5	第9回～第10回	グルーミングツールについて(種類)
項目6	第11回～第12回	グルーミングツールの正しい使い方とお手入れ方法について
項目7	第13回～第14回	犬の体の基礎について(骨格名称、犬体名称)
項目8	第15回～第16回	犬の皮膚について(構造、役割)
項目9	第17回～第18回	犬の被毛について(基礎知識、タイプ、構造)
項目10	第19回～第20回	犬の日常的なケアについて(目、爪、歯のお手入れ)
項目11	第21回～第22回	トリミング時の保定について
項目12	第23回～第24回	爪切り、足裏クリッピング、耳掃除について
項目13	第25回～第26回	ブラッシングについて
項目14	第27回～第28回	シャンプーとドライイングについて
項目15	第29回～第30回	商品学(グルーミング時に使うシャンプー剤などについて)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	グルーミング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90時間/年 全90回	単位

講義概要:実習を通してベーシックの基本の技術を習得し、時間内にカットまで仕上げ、C級ライセンス取得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全90回	【モデルグルーミング】・爪切り・足裏のクリッピング・耳掃除・シャンプー・ドライング
項目2		【ベーシック実習】・ベーシックと足回りのカットのみ
項目3		【モデルグルーミング】・ボディのクリッピング・四肢のカット(ハサミ仕上げ)・顔のカット
項目4		【リボン製作とラッピングについて】
項目5		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって 接客実習を行う
項目6		【トリミング実習】・全身カット時間内に一頭仕上げられる
項目7		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目8		【ショークリップについて】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	ドッグトレーニング理論 I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:オオカミとの比較から犬が家畜化される過程の習熟を図り、ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。 脳と行動の関係について理解するとともに動物行動学に沿った具体的なトレーニング方法の選択・組み立て方を身に付ける。
到達目標: 多岐にわたるトレーニング方法の種類について各特性を理解し説明することが出来る。又、トレーニングの際に必要な各道具の知識を習得し選択することができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	犬の進化と家畜化 (狼との比較、伴侶となるまでの各経緯、遺伝的素質、環境要因など)
項目2	第5回～第8回	学習の生物学的なしくみ (大脳辺縁系、大脳皮質、成長過程・去勢避妊手術の影響、雌雄ホルモン、社会的階級制度など)
項目3	第9回～第12回	行動に影響する生理物質 (神経伝達物質、脳内物質の役割、気質の3軸モデルなど)
項目4-①	第13回～第15回	犬の言葉① (聴覚・体臭・視覚によるコミュニケーション、ボディランゲージ、カーミングシグナルなど)
項目4-②	第16回～第18回	犬の言葉② (回避行動、能動的服従、受動的服従、先制攻撃型、守備防衛型など)
項目5	第19回～第22回	学習理論 (古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、感作など)
項目6	第23回～第26回	トレーニング方法 (強制トレーニング、直接誘導法、ルアー誘導法、キャッチング、シェーピング、逆行連鎖、ターゲットなど)
項目7	第27回～第30回	犬具 (ハーフチョーク、チョークチェーン、ピンチカラー、リミテッド・スリッカラー、ジェントル・リーダー、イージーウォークハーネス等の各使用方法・装着方法・注意点・得られる効果など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	総合トレーニング実習 I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90時間/年	単位

講義概要:総合トレーニング実習 I では、「聴く力」「伝える力」「指導する力」を要するインストラクションスキルを身に付け、クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。
到達目標:
クライアントの生活環境・要望に合わせたトレーニングスケジュールを組立てる技術を習得しクライアント教育に励む。

授 業 計 画

項目1	全90回	インストラクションスキル (題材の選定・目標の把握・展開順序・指導能力など)
項目2		カウンセリングスキル (カウンセリングの基本姿勢・傾聴・繰り返し技法・信頼関係の構築方法など)
項目3		クライアントに合わせたトレーニングスケジュールの組方 (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮したトレーニングスケジュールの組立て方など)
項目4		クライアント指導(基礎) (クライアントの生活環境・性格・年齢を考慮した指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	飼育管理学Ⅰ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標:
犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅰ」にて行うことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物飼育実習 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年	単 位

講義概要:
実際に動物を世話することで観察力と動物福祉の精神を養う。また、衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に付けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力を身に付ける。
到達目標:
個体別の生活様式から正常と異常を見極め、各動物の飼育の仕方などを説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	飼育動物について(本校にいる飼育動物について理解する)
項目2	第4回～第11回	犬の飼育
項目3	第12回～第19回	猫の飼育
項目4	第20回～第27回	ウサギの飼育
項目5	第28回～第35回	ハムスターの飼育
項目6	第36回～第43回	モルモットの飼育
項目7	第44回～第51回	フェレットの飼育
項目8	第52回～第59回	ハリネズミの飼育
項目9	第60回～第67回	チンチラの飼育
項目10	第68回～第75回	小鳥の飼育
項目11	第76回～第90回	トレーニング
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物保護学概論	桑内由子(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保護について、感情論ではなく客観的データを基に講義を行う。
動物を愛護する側の視点だけでなく、社会全体における動物に対する評価を認識する。
到達目標:
日本の現状を理解し、日本と世界の動物保護を比較することで、保護環境の向上のための考察、および行動を目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物保護とは
項目2	第7回～第12回	動物保護の現状について
項目3	第13回～第18回	殺処分について
項目4	第19回～第24回	日本の動物保護
項目5	第25回～第30回	世界の動物保護
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院にて保護活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物福祉学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物福祉の考え方、改善について、現状と今後の展望を合わせて講義を行う。
到達目標:
動物福祉を正しく理解し、様々な観点から人と動物の双方にとってより良い解決を目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物福祉とは
項目2	第7回～第12回	動物福祉の考え方
項目3	第13回～第18回	動物福祉の改善について
項目4	第19回～第24回	動物福祉の現状
項目5	第25回～第30回	動物福祉の展望
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した飼育経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物保全学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保全の概要および、日本と世界の動物保全について比較し、問題点とその改善を考察ができる講義を行う。
到達目標:
動物保全の全体像を捉え、日本と世界の取り組みを理解し、今後の動物保全について自らの考えを持てることを目指す。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物保全とは
項目2	第7回～第12回	我が国における動物保全
項目3	第13回～第18回	他国における動物保全
項目4	第19回～第24回	動物保全の問題点と改善点
項目5	第25回～第30回	今後の動物保全
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて環境保全活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1、2年	経営学・ビジネススキル	豊實祐之(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する
到達目標:
1人1人が自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。

授 業 計 画

項目1	全30回	自己分析、自己紹介
項目2		他者理解、他己紹介
項目3		履歴書の書き方
項目4		電話のかけ方
項目5		企業研究
項目6		面接対策
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は一般企業において総合職の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 通年	ボランティア学	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。
また、周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する
到達目標:
主体的に考え、慈善事業に対して利他の精神で活動出来るようになる。

授 業 計 画

項目 1	全30回	主体性とは(主体性と自主性の違い、ボランティアの意義について)
項目 2		地域清掃ボランティア(普段通学する道を清掃する)
項目 3		愛護センターイベントボランティア(愛護センターで開かれるイベントのお手伝いを行う)
項目 4		グループワーク(自分たちに出来る活動を考え、実践する)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等) ペットマイスター学科3, 4年次は30時間/年とし、4年間合計全90回とする。		特記事項 担当教員は警察犬訓練所において動物保護活動やセラピー犬活動に従事した経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	犬種別ペットクリップ I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要: 犬種のそれぞれ特徴を理解し、お客様の要望を踏まえ、その犬種にあったペットクリップを実践で学ぶ
到達目標:
各犬種のカット法を理解した上で仕上げられるようになる

授 業 計 画

項目1	全90回	【チワワ、ダックス、パピヨン、シェルティ、キャバリアなどの犬種の飾り毛のカット】
項目2		【トイ・プードルのテディベアカット】
項目3		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目4		【ポメラニアンの子カット】
項目5		【シーズーの子カット】
項目6		【マルチーズの子カット】
項目7		【ヨークシャー・テリアの子カット】
項目8		【ビション・フリーゼの子カット】
項目9		【ミニチュア・シュナウザーの子カット】
項目10		【アメリカン・コッカー・スパニエルの子カット】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	ハンドリング学I	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
ドッグショーについて理解し、犬の見せ方を実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーの歴史
項目2	第3回～第4回	犬に関する基礎知識(習性、心理、行動)
項目3	第5回～第6回	犬の体構造
項目4	第7回～第8回	ハンドリングの審査について
項目5	第9回～第10回	ハンドリングとは
項目6	第11回～第12回	スタックについて(テーブルでのスタックについて、テーブルでのフリースタANDINGについて)
項目7	第13回～第14回	小型犬のスタックについて
項目8	第15回～第16回	大型犬のスタックについて(犬の正面におけるフリースタANDINGについて)
項目9	第17回～第18回	リードのかけ方(種類、用途)、リードの持ち方
項目10	第19回～第20回	ムーブメント①歩様とアンギュレーション
項目11	第21回～第22回	ムーブメント②歩速とステップ
項目12	第23回～第24回	歩行について①トライアングルによる犬の見せ方 ②アップ&ダウンによる犬の見せ方
項目13	第25回～第26回	歩行パターンについて(トライアングル、アップ&ダウン、リンガー周、L字、T字など)
項目14	第27回～第28回	歯の見せ方について、耳の正しいセットについて
項目15	第29回～第30回	リードワークについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陳経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	ペット造形学・美学 I	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
ペット犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第30回	シーザーのデッサン
項目2	第31回～第40回	犬体模型の作製(画用紙)
項目3	第41回～第50回	犬体模型の作製(粘土)
項目4	第51回～第60回	犬体模型の作製(羊毛フェルト)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物薬理学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数	単 位 数
	60時間/年	単 位

講義概要:
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、 動物の疾病 の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。
到達目標:
薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し実際の医療現場での行動に活かすことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物薬理学の基礎 (獣医臨床における薬物治療の概念、目的を理解する / 薬理作用とその発現機構、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性 / 薬物間相互作用、副作用と中毒について)
項目2	第7回～第12回	動物看護師による薬物の取り扱い (投薬量が計算、薬物の適切な管理方法 / 各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導)
項目3	第13回～第18回	神経系に作用する薬物 (全身麻酔薬、局所麻酔薬、鎮痛薬 / 運動神経系に作用する薬、鎮静薬、抗けいれん薬 / 問題行動の治療に用いられる薬)
項目4	第19回～第24回	呼吸器系に作用する薬物 (呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬)
項目5	第25回～第30回	循環器・泌尿器に作用する薬物 (血管拡張薬(降圧薬)、心不全治療薬(強心薬)、抗不整脈薬、利尿薬)
項目6	第31回～第36回	消化器に作用する薬物 (制吐薬、制酸薬、胃粘膜保護薬 / 消化管運動促進薬、止瀉薬、瀉下薬)
項目7	第37回～第42回	消化管運動促進薬 (肝疾患の治療に用いられる薬物、腸酵素製剤)
項目8	第43回～第48回	オータコイド、代謝・内分泌系 (代表的なオータコイド、糖尿病治療薬 / 甲状腺ホルモン製剤、ステロイドホルモン製剤)
項目9	第49回～第54回	血液・免疫系に作用する薬物 (抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬(止血薬) / 非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、免疫抑制薬)
項目10	第55回～第60回	感染症薬・感染症予防・化学療法薬 (抗菌薬(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)、抗真菌薬、抗がん剤 / 駆虫薬、殺虫薬、消毒薬、化学療法薬、悪性腫瘍に用いられる薬物、抗がん剤)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物生活環境学	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、
ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故や怪我等のリスクを
除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解する
到達目標:
ペットと人の共生のための生活環境のあり方を理解し、実践できる

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	飼養環境整備(動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法)
項目2	第3回～第4回	飼養環境整備(ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法)
項目3	第5回～第6回	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン(ペットツーリズム/現状と実施方法、宿泊ホテルの環境整備・管理方法、ドッグラン/環境整備・管理方法)(ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興)
項目4	第7回～第9回	保護収容施設(動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理方法、シェルターメディスン)
項目5	第10回～第12回	保護収容施設(動物愛護センターの役割、施設の概要、普及啓発活動)
項目6	第13回～第15回	ペットへの教育・訓練施設(動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等)
項目7	第16回～第18回	動物介在教育施設(学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法)
項目8	第19回～第21回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(飼育マナーの必要性、目的、歴史、地域における飼育マナーの違い)
項目9	第22回～第24回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例)
項目10	第25回～第27回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(愛玩動物の種類別に必要とされる飼育マナー)
項目11	第28回～第30回	ペット飼育のマナー・事故や怪我等のリスクへの対応(ペット保険の仕組みと実態)

成績評価方法
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)
特記事項 担当教員は動物病院において 動物看護師およびトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物臨床検査学	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	臨床検査の基礎(臨床検査における愛玩動物看護師の役割、基準値、感度、特異度、精度管理、検体採取法)
項目2	第5回～第8回	血液検査(血漿、血清の分離法、全血球計算法、血液塗抹の作製・観察法、HT管検査)
項目3	第9回～第12回	血液検査(凝固検査、血液化学検査、血液ガス検査、免疫学的検査)
項目4	第13回～第16回	尿検査(性状検査、尿沈渣)
項目5	第17回～第20回	糞便検査(虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法)
項目6	第21回～第25回	細胞診と病理組織検査(細胞診断、病理組織検査のための検体の取り扱い)
項目7	第26回～第30回	遺伝子検査(目的と応用例、検体の採取および取り扱い)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物看護師として動物病院での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物臨床検査学実習	延原純子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト5巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。
到達目標:
検体検査・生体検査の主な種類と検査の意義を理解し、生態に及ぼす影響も考慮しながら行うことが出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	検体採取、処理の手順
項目2	第6回～第10回	マイクロピペットや遠心分離器の使用、操作
項目3	第11回～第15回	血漿、血清の分離
項目4	第16回～第21回	血液塗沫標本作成、染色
項目5	第22回～第27回	血液塗沫標本の観察、白血球の分類
項目6	第28回～第33回	全血球計算および血液化学検査の実施
項目7	第34回～第39回	簡易血清学的検査の実施
項目8	第40回～第45回	尿検査を実施、物理化学性状の記録
項目9	第46回～第51回	尿沈渣を観察、所見の記録
項目10	第52回～第56回	糞便検査の実施、虫卵および原虫の検出
項目11	第57回～第60回	細胞診の準備、補助

成績評価方法
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)
特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	服従訓練 I	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:指導手のコマンドに対し犬が従順に適応する基礎的な服従訓練を実践的に学ぶとともに、それらを活用した行動修正法の知識を習得する。
到達目標:
又、犬の性格・犬種・飼育環境等に合わせた行動改善修正法を判断・選択し改善に向けたトレーニングスケジュールを自身で組立てる知識を身に付ける

授 業 計 画

項目1	全90回	道具 (首輪・リード・報酬・嫌悪刺激等のトレーニングに使用する道具を使い分ける)
項目2		服従訓練 (CD I S家庭犬競技準初等科の内容)
項目3		問題行動予防法 (健康状態、環境の向上、リーダーシップ、全般的な管理など)
項目4		行動修正法 (甘噛み、トイレトレーニング、破壊行動、物を守る、防御的攻撃行動、先制的攻撃行動など)
項目5		トレーニングスケジュールの組立て (犬の性格・犬種・年齢・性別・飼育環境に沿って組立てる)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	アジリティ I	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ教室	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年 全90回	単 位

講義概要:ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び運動能力の向上を目指す。ドッグスポーツの起源を理解するとともに、アジリティの歴史から競技概要を理解する。

到達目標:

使用する障害物の名称や組立方法を習得し安全な道具設置を身に付けるとともに各障害物のトレーニング方法を習熟する。

授 業 計 画

項目 1	全90回	ドッグスポーツの概要 (アジリティ・ディスク・フライボール・ノーズワークなど)
項目 2		障害物設置基準 (体高別グループ分け・障害物配置基準など)
項目 3		各障害物のトレーニング方法 (陽性強化・嫌悪刺激の使い分けなど)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物園学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
世界と日本の動物園の歴史から動物園動物の福祉、動物園の存在意義について解説する。
到達目標:
動物園の歴史からどのように現在の動物園が作られたのかを理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物園学とは
項目2	第7回～第12回	動物園の歴史
項目3	第13回～第18回	動物園の生物学
項目4	第19回～第24回	動物園の保全生物学
項目5	第25回～第30回	動物園の飼育管理学
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	生物分類学 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
現在認識されている生物多様性を俯瞰的に把握し、進化的背景を踏まえて生物分類の基礎を学ぶ
到達目標:
分類学の基本的知識を身に着け、進化の理論やメカニズム、生物多様性が成立した背景やその解析方法を理解できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	分類と分類学
項目2	第6回～第10回	国際動物命名規約
項目3	第11回～第15回	新しい分類学
項目4	第16回～第30回	脊椎動物の分類
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 1年	動物展示学・実習 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単位

講義概要:
動物飼育の目的を理解したうえで様々な展示方法を解説する。
到達目標:
実際に動物園に行った際にどのような展示方法がとられているのか理解できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第12回	動物園展示の形態
項目2	第13回～第24回	ハーゲンベックの革命
項目3	第25回～第36回	ランドスケープ・イマージョンへ
項目4	第37回～第48回	ストーリー性とテーマパーク化
項目5	第49回～第60回	日本の展示文化
項目6	第61回～第72回	海外の展示文化
項目7	第73回～第84回	解説サイン
項目8	第85回～第96回	景観デザイン
項目9	第97回～第108回	展示の評価
項目10	第109回～第120回	体験型展示
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物病理学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト3巻	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
到達目標:
細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	動物病理学の基礎 (病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義／病理組織標本の作製法／病理組織学的検査の実施手順)
項目2	第6回～第10回	細胞や組織に生じる変化 (変性と物質沈着／壊死とアポトーシス／細胞増殖のメカニズム、再生と化生／低形成と萎縮／過形成と肥大)
項目3	第11回～第15回	循環障害 (充血とうっ血／出血の原因、病態の理解／血栓の成因／虚血と梗塞／浮腫、水腫／ショックの原因と分類、病態／播種性血管内凝固(DIC)の病態)
項目4	第16回～第20回	炎症 (炎症の定義と5大主徴／炎症の分類と原因、特徴／炎症に関与する細胞と化学伝達物質について／炎症の経過と治癒)
項目5	第21回～第25回	腫瘍 (腫瘍の定義と分類／腫瘍の原因と発生機序／腫瘍と宿主の関係／腫瘍の転移と進行)
項目6	第26回～第30回	先天異常 (遺伝子・染色体異常／発生異常と奇形)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	適正飼養指導論	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。
到達目標:
愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解し、啓発できる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第4回	愛玩動物の飼養(適正飼養の目的、概念について、現状について)
項目2	第5回～第8回	愛玩動物の飼養(飼養によって人間が受ける影響と問題点、飼養のニーズや目的の理解と共に、グリーフケア、ペットロスについて概要と飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する)
項目3	第9回～第12回	適正飼養の推進(支援の目的と活動について理解、動物取扱業者における適正飼養について理解)
項目4	第13回～第16回	適正飼養の推進(過剰繁殖の問題とその対策についての理解、問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解)
項目5	第17回～第20回	災害危機管理と支援(同行避難の重要性、愛玩動物とその飼い主の災害と備え、災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割)
項目6	第21回～第25回	動物愛護管理行政(公衆衛生における愛玩動物看護師の役割、動物愛護週間の役割と実施状況、犬猫の引き取りおよび負傷動物などの収容並びに処分の状況)
項目7	第26回～第30回	動物愛護管理行政(動物による事故の内容と報告状況、動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割、動物取扱責任者の選任条件と役割)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物看護関連法規	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年	単 位

講義概要:
動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における動物看護師の役割を理解する。
到達目標:
法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身に付ける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	法的総論(法の体系、獣医療に関する法規と愛玩動物看護師の関わり)
項目2	第3回～第5回	愛玩動物看護師法(目的、定義)
項目3	第6回～第7回	獣医療関連行政法規(獣医師法の概要、獣医療法の概要)
項目4	第8回～第9回	公衆衛生行政法規(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要)
項目5	第10回～第11回	公衆衛生行政法規(狂犬病予防法の概要)
項目6	第12回～第13回	薬事行政法規(医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律の概要)
項目7	第14回～第15回	薬事行政法規(麻薬及び向精神薬取締法の概要、毒物及び劇物取締法の概要)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら動物飼育に携わった経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物愛護・適正飼養関連法規	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	15 時間/年	単 位

講義概要:
動物愛護および適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する
到達目標:
動物医療現場で直面する生命倫理が説明出来る。
動物福祉を考慮するための基本的理念を説明出来る。
関連する法規を理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回	愛護・適正飼養の基本となる概念(法規と動物看護師の関わりについて理解)
項目2	第2回～第4回	愛護・適正飼養関連行政法規 (動物の愛護および管理に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律)
項目3	第5回～第7回	社会福祉行政・環境衛生法規 (身体障害者補助犬法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律)
項目4	第8回～第9回	野生動物等に関する法律および条約 (生物多様性の概要、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)
項目5	第10回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約)
項目6	第11回	野生動物等に関する法律および条約 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)
項目7	第12回	野生動物等に関する法律および条約 (鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)
項目8	第13回	野生動物等に関する法律および条約 (特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)
項目9	第14回	野生動物等に関する法律および条約 (自然公園法における野生動植物保護に関する制度)
項目10	第15回	野生動物等に関する法律および条約 (文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は各種法規を遵守しながら 動物飼育に携わった経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	比較動物学	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
飼養動物や野生動物の概要を理解すると共に、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験とのかかわり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ
到達目標:
野生動物における生態系と環境保全および外来生物について理解し自分の意見が述べられる
展示動物の管理について入手、飼育法を理解し自分の意見が述べられる

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の種類及び特性(愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物の比較、歴史、社会的位置づけ、特徴)
項目2	第11回～第20回	産業動物(馬、牛、めん羊、山羊、豚、鳥の歴史、品種、特徴)
項目3	第21回～第30回	産業動物(各家畜の消化器の形態と昨日、食性、性周期、繁殖生理、飼養施設、食性と飼養法)
項目4	第31回～第40回	実験動物(目的、意義、飼養管理、繁殖法、遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御、疾患モデル動物)
項目5	第41回～第50回	野生動物(分類、生物多様性、鳥獣害の現状と保全の意義、絶滅危惧種の定義、動物、原因、保全方法、外来生物の正義、在来生態系に及ぼす影響、対策)
項目6	第51回～第60回	展示動物(意義と役割、個体・群管理、行動管理、施設管理)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は豚舎、動物園、研究施設において飼育員の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物感染症学	木下啓明(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第3巻	授業時間数	単 位 数
	90 時間/年	単位

講義概要:
微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、
予防・治療など感染症対策の基礎を習得する。
感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。
到達目標:
寄生現象、宿主との関連性を理解し予防獣医学に貢献出来る。
主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解し飼い主様に説明出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	定義(感染症とは、微生物とは、寄生虫とは)
項目2	第6回～第10回	微生物(細菌、真菌、ウイルス等の分類、特性、伝播様式等)
項目3	第11回～第15回	微生物検査(検体採取と取り扱い、無菌環境下での必要な手技、無菌環境下での手技、微生物培養法、顕微鏡による観察、抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む)、薬剤感受性試験)
項目4	第16回～第20回	内部寄生虫(線虫類、条虫類、吸虫類、原虫類)
項目5	第21回～第25回	外部寄生虫(マダニ類、マダニ類以外のダニ類、昆虫類)
項目6	第26回～第30回	線虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (回虫類、鉤虫、鞭虫、糞線虫、東洋眼虫、猫毛細線虫、猫胃虫、犬糸状虫)
項目7	第31回～第35回	条虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (瓜実条虫、マンソン裂頭条虫、猫条虫、日本海(広節)裂頭条虫)
項目8	第36回～第40回	吸虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (壺形吸虫、横川吸虫、肝吸虫、肺吸虫、宮崎肺吸虫、ウェステルマン肺吸虫、日本住血吸虫)
項目9	第41回～第45回	原虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (コクシジウム、クリプトスポリジウム、ジアルジア、トリコモナス(腸トリコモナス)、トキソプラズマ、バベシア、ヘモバルトネラ)
項目10	第46回～第50回	節足動物の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (フタトゲチマダニ、ショウコウヒゼンダニ、ツリガネチマダニ、キチマダニ、ヤマトマダニ、ツルツエマダニ)
項目11	第51回～第55回	マダニ類以外のダニ類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (ヒゼンダニ類、ミミヒゼンダニ、ニキビダニ(アカラス)、イヌツメダニ)
項目12	第56回～第60回	昆虫類の生活環、感染経路、症状、予防、治療 (イヌシラミ、ネコジラミ、イヌハジラミ、ネコハジラミ、イヌノミ、ネコノミ)
項目13	第61回～第65回	寄生虫疾患の検査、診断法、駆虫薬・駆除剤の使用法
項目14	第66回～第70回	免疫 (免疫とは、免疫応答、自然免疫、獲得免疫、抗体、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全)
項目15	第71回～第75回	ワクチン(機序、効果、プログラム、ブースター効果、狂犬病ワクチン、混合ワクチン)
項目16	第76回～第80回	消毒と滅菌(滅菌法(火炎、乾熱、高圧蒸気、濾過、ガス)、消毒法(煮沸、蒸気、各種消毒薬とその作用機序))
項目17	第81回～第85回	衛生管理(生物学的ハザード、化学的ハザード、物理的ハザード、整理・整頓・清掃・清潔)
項目18	第86回～第90回	動物感染症(感染経路と伝播様式の理解、感染症の成立要因、主な感染症、治療法、予防法)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は獣医師として研究施設での経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物愛護・適正飼養実習	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	60 時間/年	単 位

講義概要:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、 愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得
到達目標:
動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなどができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	動物の基本的な取り扱い(ハンドリング、安全な散歩・運動)
項目2	第11回～第20回	動物の基本的な取り扱い(犬の散歩、運動、ふれあいの為の適切な道具選択)
項目3	第21回～第30回	動物の基本的な取り扱い(グルーミングの実施、飼養環境を適切に整備できる)
項目4	第31回～第40回	飼い主とのコミュニケーション(品種に応じた特徴の説明、適切な飼養方法の指導、飼い主の法令遵守を指導)
項目5	第41回～第50回	飼い主とのコミュニケーション(飼養が困難となっている飼い主への支援説明、避難所等災害時の飼い主への支援説明)
項目6	第51回～第60回	動物愛護管理行政(動物愛護管理センターの活動を理解、動物取扱業へ指導すべき内容についての理解、動物取扱業における顧客等への対応について実践する)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院にて動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	ペット関連産業概論	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第6巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ
到達目標:
ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解すると共に、ペット飼養のニーズや形態、
ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を身につける。

授 業 計 画

項目1	第1回～第7回	ペット関連産業における職業倫理(責任と社会的役割、商取引における関連法規の概要理解、動物の愛護および管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法の理解)
項目2	第8回～第14回	ペットの飼養実態と市場規模(ペットの飼養実態およびペット関連産業の概要、市場規模について理解)
項目3	第15回～第22回	各ペット関連産業の現状と課題(ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題の理解)
項目4	第23回～第30回	動物取扱業(動物取扱業制度の概要、動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取り扱い方法や衛生管理に係る手法の理解)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院において動物看護師としての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	グルーミング学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:一年時に学んだ基礎を踏まえて、犬種に応じたペットクリップ、ショークリップなどに関する高い知識の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングについて理解し、グルーミング実習で実践出来る

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	グルーミングの必要性和トリマーの心得
項目2	第3回～第4回	トリミングのイメージの作り方と描き方
項目3	第5回～第6回	犬体用語について①
項目4	第7回～第8回	犬体用語について②
項目5	第9回～第10回	グルーミング用語について
項目6	第11回～第12回	皮膚と被毛について
項目7	第13回～第14回	犬のドッグショーの歴史
項目8	第15回～第16回	ショークリップについて(目的に応じたショークリップについて)
項目9	第17回～第18回	プードルのショークリップについて
項目10	第19回～第20回	ショー用語について
項目11	第21回～第22回	ショーで使う道具について
項目12	第23回～第24回	ショーにおける犬の扱いかた、お手入れについて
項目13	第25回～第26回	シザーリング犬種のグルーミングについて
項目14	第27回～第28回	スイニング犬種のグルーミングについて
項目15	第29回～第30回	ブラッキング犬種のグルーミングについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	ドッグトレーニング理論Ⅱ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単位

講義概要:犬が起こした行動からオペラント条件付けの基本的な4つの因果関係に振り分けるとともにそれらを活用した動機付けトレーニングの学習原理の知識を習得する。
到達目標: 又、犬の許容範囲を示すために存在する様々なコミュニケーション方法について判別する知識を身に付け、カーミング・シグナルを区別することができる。LEADプログラムを使用し犬との関わりに活かすことができる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	オペラント条件付け (正の強化、正の罰、負の強化、負の罰など)
項目2	第6回～第10回	領域 (個人空間、逃走距離、臨界距離、攻撃距離など)
項目3	第11回～第15回	カーミングシグナル 静止画、動画、実物の犬をよく観察しカーミング・シグナルを見分けるなど)
項目4	第16回～第20回	LEADプログラム (注意の引き付け方、食事の管理、ゲームの管理、領域の支配など)
項目5-①	第21回～第23回	学習理論① (一次性強化子、二次性強化子、消去、自然回復、トレーニングのABC、オーバーシャドーイング、般化、ブレマックの原理)
項目5-②	第24回～第25回	学習理論② (拮抗条件付け、系統的脱感作、鋭敏化など)
項目6	第26回～第30回	犬の行動を安定させるための4つのD (距離、継続時間、多様性、報酬の配分など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	飼育管理学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名 動物看護コアテキスト第2巻	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
伴侶動物、展示動物について適正飼育法および主な疾病について理解し、看護と飼い主指導に活かす。
到達目標:
犬猫と比較し、その生態と生理、習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅱ」にて行うことができるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	エキゾチックアニマルとは(ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、鳥類の生態や飼育について)
項目2	第16回～第30回	野生動物と展示動物について (動物園と野生動物の関わりについて、動物園での飼育について、エンリッチメント)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物福祉学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物福祉学Ⅰで学んだ内容から、関わりの多い犬・猫の福祉について考え、現状や問題点を歴史的背景も含めて講義する。
到達目標:
動物福祉を正しく理解し、犬・猫について自分たちにどのようなことが出来るのか模索し、実践する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	伴侶動物の福祉について
項目2	第11回～第20回	歴史的背景
項目3	第21回～第30回	犬、猫の福祉に係わる問題点
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した飼育経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物保全学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物保全学Ⅰにおいて学んだ内容から自分たちに出来ることをグループで考え、実践する。
到達目標:
身近なところから出来る動物保全を考えられるようになり、動物保全に係わっている責任感を認識できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	自分に出来る動物保全の検討
項目2	第6回～第28回	グループワーク
項目3	第29回～第30回	保全計画の発表および質疑応答
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて環境保全活動に従事した経験を持つ

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	グルーミング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要: 実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全180回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生が2人1組となって接客実習を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使つてのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭仕上げられる
項目5		【C級ライセンス対策】トイ・プードル一頭全身ハサミで仕上げる
項目6		【B級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	犬種別ショークリップI	大栗里美(実務経験あり)
教科書名:スタンダードスタイル	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
到達目標:
各犬種のショークリップを理解し、仕上げられるようになる。

授 業 計 画

項目1	全180回	【トイ・プードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップペット・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショークリップ】
項目14		【ウェルツシュ・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	犬種別ペットクリップⅡ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単 位

講義概要:犬種の特徴を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標:
犬種別ペットクリップⅠの内容に早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる

授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティベアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム＆ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアのペットカット】
項目8		【シーズーのペットカット】
項目9		【マルチーズのペットカット】
項目10		【ヨークシャー・テリアのペットカット】
項目11	全120回	【ビション・フリーゼのペットカット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーのペットカット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのペットカット】
項目15		【イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアのペットクリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップ】
項目18		【ケアンテリアのペット・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアのペットクリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアのペットクリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアのペットクリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	ハンドリング学Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単位

講義概要:ドッグショーについての基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学び、スタンダード(犬種標準)を理解する
到達目標:
犬種ごとのスタンダードの知識を深め、ショーのためのグルーミングの必要性を学び、各犬種の見せ方、ハンドリングの技術の習得を目指す

授 業 計 画

項目1	第1回～第2回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて①(パウダーリング、ラッピング)
項目2	第3回～第4回	ドッグ・ショーのためのグルーミングについて②(ブラシング、飾り毛のカット)
項目3	第5回～第6回	テイルセットについて
項目4	第7回～第8回	ドッグ・ショーでのマナーとルール
項目5	第9回～第10回	審査を受けるときのマナーとテクニック
項目6	第11回～第12回	ドッグ・ショーにおけるパピートレーニングについて
項目7	第13回～第14回	各犬種の見せ方①シェパード・シープ・ドッグ
項目8	第15回～第16回	各犬種の見せ方②ミニチュア・シュナウザー
項目9	第17回～第18回	各犬種の見せ方③ヨークシャー・テリア
項目10	第19回～第20回	各犬種の見せ方④ミニチュア・ダックス・フンド
項目11	第21回～第22回	各犬種の見せ方⑤アメリカン・コッカー・スパニエル
項目12	第23回～第24回	各犬種の見せ方⑥ゴールデン・レトリバー
項目13	第25回～第26回	各犬種の見せ方⑦トイ・プードル、ミニチュア・プードル
項目14	第27回～第28回	各犬種の見せ方⑧パピヨン
項目15	第29回～第30回	各犬種の見せ方⑨マルチーズ、シーズー
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトレーナー、トリマーとしてドッグショーへの出陣経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	ペット造形学・美学Ⅱ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年 全30回	単 位

講義概要:
ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う
到達目標:
犬種やカットスタイルから仕上がりを想像出来るようになる

授 業 計 画

項目1	全30回	トイプードルのコンチネンタル・クリップ デッサン
項目2		トイプードルのパピークリップ デッサン
項目3		トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ デッサン
項目4		ビション・フリーゼのショー・クリップ デッサン
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	総合トレーニング実習Ⅱ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:
犬を使ったデモンストレーション技術を身に付けるとともにしつけ教室開催に向けた知識を習得する。
到達目標:
総合トレーニング実習Ⅰの知識・技術を基にカウンセリングからクライアントの要望に合わせたトレーニングを提案できる。

授 業 計 画

項目1	全180回	デモンストレーション実施 (説明・実演など)
項目2		しつけ教室開催にむけて (企画・運営など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は警察犬訓練所においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	服従訓練Ⅱ	矢野章太(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要: 服従訓練Ⅰで学んだ知識・技術を基に訓練競技会出場に向けたより実践的な競技規則やマナーを習得する。
到達目標:
問題解決能力やトレーニング実践能力を身に付けクライアントの生活環境を基にクライアントに合った問題行動改善方法を提案・指導することができる。

授 業 計 画

項目1	全180回	服従訓練(応用) (CDⅡ 家庭犬訓練試験中等科の内容など)
項目2		訓練競技会 (競技規則、競技訓練科目、会場マナー、犬の扱いなど)
項目3		クライアント指導 (クライアントに合わせた問題行動改善方法の指導など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は現在も訓練所で訓練士の経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	アジリティⅡ	桑内由子(実務経験あり)
教科書名 犬のしつけ方教室	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年 全180回	単 位

講義概要:
競技会出場に向けた審査基準を身に付けるとともにトレーニングスケジュールを組み実践する。制限時間内に
コースの順番を記憶し人間の立ち位置・犬の走行ルートを考案する。
到達目標:
アジリティⅠで学んだ知識・技術を基により実践的な犬種・年齢等に合わせたアジリティトレーニングを習得し実践することができる。

授 業 計 画

項目1	全180回	競技会の審査基準 (障害物の種類・規定時間・科目規定など)
項目2		検分 (立ち位置、走行ルート、障害物記憶など)
項目3		トレーニングスケジュールの組立 (細分化した目標設定、犬種・年齢・性格を考慮した組立て方など)
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、 不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物飼育実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単 位

講義概要:
動物飼育実習Ⅰに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
到達目標:
適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。

授 業 計 画

項目1	全120回	動物福祉を意識した飼育
項目2		チームを意識した飼育
項目3		コミュニケーション力を活かした飼育
項目4		観察力を高める飼育
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物園学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
動物園学Ⅰにおいて学んだ内容をさらに細かな学問に分けて解説を行う。
到達目標:
動物園の4つの存在意義を様々な学問の視点から理解する。

授 業 計 画

項目1	第1回～第6回	動物園の獣医学
項目2	第7回～第12回	動物園の展示学
項目3	第13回～第18回	動物園の教育学
項目4	第19回～第24回	動物園の福祉学
項目5	第25回～第30回	動物園の経営学
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	生物分類学Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年	単 位

講義概要:
生物分類学Ⅰにおいて学んだ内容からそれぞれに分類されている生物について学ぶ
到達目標:
それぞれの分類における動物種や特徴について理解している

授 業 計 画

項目1	第1回～第3回	霊長目
項目2	第4回～第6回	食肉目
項目3	第7回～第9回	長鼻目
項目4	第10回～第12回	奇蹄目
項目5	第13回～第15回	偶蹄目
項目6	第16回～第18回	コウノトリ目
項目7	第19回～第21回	ガンカモ目
項目8	第22回～第24回	キジ目
項目9	第25回～第27回	ツル目
項目10	第28回～第30回	フラミンゴ目
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 2年	動物展示学・実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	180 時間/年	単 位

講義概要:
動物展示学・実習Ⅰにおいて学んだ様々な展示方法から動物種を決め実際に展示施設を作製する。
到達目標:
来園者側、飼育員側、双方の視点から動物種に適した展示方法を考え、作製することができるようになる。

授 業 計 画

項目1	全180回	動物展示を考える
項目2		動物展示模型の作製
項目3		動物展示の作製
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年 ペットマイスター学科 2年	科 目 名 アニマルトレーニング実習	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 180 時間/年	単 位 数 単位

講義概要:
様々な動物種にあわせたトレーニングスケジュールを組み立てる技術を習得し、アニマルショーが行えるよう励む。
到達目標:
動物種の習性や能力を理解したうえで、観衆を魅了するトレーニングを実践できるようになる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	小動物トレーニングについて
項目2	全170回	ウサギのトレーニング
項目3		モルモットのトレーニング
項目4		ハリネズミのトレーニング
項目5		チンチラのトレーニング
項目6		デグーのトレーニング
項目7		猛禽類のトレーニング
項目8		ミイアキャットのトレーニング
項目9	第176回～第180回	学習発表会
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	グルーミング学Ⅲ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
個体毎のライフステージにあわせたグルーミングについて理解する
到達目標:
パピーから老犬までそれぞれにあった負担の少ないグルーミングを学ぶ

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	ファーストリミングについて
項目2	第6回～第9回	パピー時におけるトリミングについて
項目3	第10回～第13回	成長期におけるトリミングについて
項目4	第14回～第18回	維持期におけるトリミングについて
項目5	第19回～第22回	衰退期におけるトリミングについて
項目6	第23回～第26回	老齢犬のトリミングについて
項目7	第27回～第30回	疾患持ちの犬のトリミングについて
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリミングサロンにおいてトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	グルーミング実習Ⅲ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名 トリマーのためのベーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年 全120回	単 位

講義概要: 実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全120回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生への指導を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使つてのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して時間内に仕上げられる
項目5		【A級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで時間内に行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	犬種別ペットクリップⅢ	鎌田空志(実務経験あり)
教科書名:トリマーのためのペーシックテクニック	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年 全30回	単 位

講義概要:犬種の特性を理解し、実習を通してその犬種にあったペットクリップの技術の習得を目指す。
到達目標:
犬種別ペットクリップⅡの内容にさらに早さと仕上がりのキレイさを求め、出来るようになる
個体毎の特徴を理解し、その個体にあったカットに仕上げる

授 業 計 画

項目1		【トイ・プードルのティペアカット】
項目2		【トイ・プードルのラム&ケネルクリップ】
項目3		【トイ・プードルのブーツカット】
項目4		【トイ・プードルのアフロカット】
項目5		【トイ・プードルのマイアミクリップ】
項目6		【トイ・プードルのバジャマ・ダッチクリップ】
項目7		【ボメラニアンの子カット】
項目8		【シーズーの子カット】
項目9		【マルチーズの子カット】
項目10		【ヨークシャー・テリアの子カット】
項目11	全30回	【ビション・フリーゼの子カット】
項目12		【ミニチュア・シュナウザーの子カット】
項目13		【アメリカン・コッカー・スパニエルの子カット】
項目14		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルの子カット】
項目15		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエル】
項目16		【スコティッシュ・テリアの子クリップ】
項目17		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの子クリップ】
項目18		【ケアンテリアの子・クリップ】
項目19		【ノーフォーク・テリアの子クリップ】
項目20		【ワイアー・フォックス・テリアの子クリップ】
項目21		【ウェルッシュ・テリアの子クリップ】
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	犬種別ショークリップⅡ	大栗里美(実務経験あり)
教科書名:スタンダードスタイル	授業時間数	単 位 数
	30 時間/年 全30回	単 位

講義概要:犬種の特徴(スタンダード)を理解し、実習を通してその犬種の持つ美しさ表現できる技術の習得を目指す
多種多様の犬種のショークリップの実習を行い、幅広く、多様性に対応できる技術の習得を目指す
到達目標:
各犬種のショークリップを理解し、より素早くキレイに仕上げられるようになる

授 業 計 画

項目1	全30回	【トイ・プードルのコンチネンタル・クリップ】
項目2		【トイプードルのパピークリップ】
項目3		【トイプードルのイングリッシュ・サドル・クリップ】
項目4		【ビション・フリーゼのショー・クリップ】
項目5		【ミニチュア・シュナウザーのショー・クリップ】
項目6		【アメリカン・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目7		【イングリッシュ・コッカー・スパニエルのショー・クリップ】
項目8		【イングリッシュ・スプリングー・スパニエルのショー・クリップ】
項目9		【スコティッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目10		【ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアのショー・クリップ】
項目11		【ケアンテリアのショー・クリップ】
項目12		【ノーフォーク・テリアのショー・クリップ】
項目13		【ワイアー・フォックス・テリアのショー・クリップ】
項目14		【ウェルッシュ・テリアのショー・クリップ】
項目15		【ベドリントン・テリアのショー・クリップ】
項目16		【ケリー・ブルー・テリアのショー・クリップ】
項目17		【エアードール・テリアのショー・クリップ】
項目18		【レークランド・テリアのショー・クリップ】
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	動物福祉実習 I	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単 位

講義概要:
様々な場所における動物福祉の現状をインタビューや実際の現場に行き知る。
到達目標:
現場の生の声を聴き、問題点や改善点を考えられるようになる。

授 業 計 画

項目 1	全120回	愛玩動物における動物福祉の現状を知る
項目 2		使役動物における動物福祉の現状を知る
項目 3		展示動物における動物福祉の現状を知る
項目 4		産業動物における動物福祉の現状を知る
項目 5		実験動物における動物福祉の現状を知る
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した動物飼育経験を有す

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3, 4年	学生指導実習	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	全300回	単位

講義概要:
これまでに学んだ内容を自分の言葉で表現し、後輩達に教えていく。
到達目標:
感覚で理解しているものを言葉で表現出来るようになる。

授 業 計 画

項目1	全300回	授業計画の立て方
項目2		授業準備の行い方
項目3		授業の実践
項目4		授業の評価
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は中学・高校教員免許を有しており、研究指導員として従事した経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3, 4年	トリミングサロン実習	大栗里美(実務経験有り)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	600時間/年 : 全1200回	単位

講義概要:
実際のトリミングサロンで研修を行い、トリマーとして必要な接客スキルやトリミングスキルを身に付ける
到達目標:
お客様の希望のオーダーを時間内に仕上げられるようになる。
グルーマー育成コースはトリミングコンテストに出場し、入賞を目指す。

授 業 計 画

項目1	実地研修
成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項
学校外での実地研修が望ましいが、受け入れが難しい場合、本校で実習とは別に実施する。	担当教員はトリマーとして勤務した経験を有す。 また国内外のコンテストへの出場歴、入賞歴をもつ。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3, 4年	ドッグトレーニング実習	桑内由子(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	600時間/年 : 全1200回	単位

講義概要:
警察犬訓練所や犬の幼稚園で研修を行い、トレーナーに必要な接客スキルとトレーニングスキルを身に付ける。
到達目標:
お客様のオーダーを仕上げる事が出来る。
訓練競技会において入賞を目指す。

授 業 計 画

項目1	実地研修
成績評価方法	
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。	
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)	特記事項 担当教員は動物病院においてトレーナーとしての経験を有す。 また訓練競技会への出場歴・入賞歴をもつ。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 3年	動物飼育実習Ⅲ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	600 時間/年	単 位

講義概要：
動物飼育実習Ⅱに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
また、動物飼育を行う上で自分の考えを再現出来る。
到達目標：
適正飼育法および観察力と動物福祉の精神を身に付け、正常と異常を鑑別しながら小動物の飼育が行える。
飼育動物種の特性を理解し、様々な展示方法を考えられる。

授 業 計 画

項目1	第1回～第5回	環境エンリッチメントについて
項目2	第6回～第30回	環境エンリッチメントの作成
項目3	第31回～第50回	環境エンリッチメントの導入
項目4	第51回～第60回	環境エンリッチメントの評価
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 4年	グルーミング学Ⅳ	山田周平(実務経験あり)
教科書名:	授業時間数	単 位 数
	30時間/年	単 位

講義概要:
犬種標準で欠点とされる個体のトリミングでのカバーについて学ぶ
到達目標:
各犬種標準を理解したうえで、グルーミング実習時に欠点をカバー出来るようになる

授 業 計 画

項目1	第1回～第10回	骨格の欠点について
項目2	第11回～第20回	毛質の欠点について
項目3	第21回～第30回	体格の欠点について
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項
		担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 4年	グルーミング実習Ⅳ	大栗里美(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120時間/年 全120回	単位

講義概要:実習を通して犬種に応じたペットクリップをバランスを考慮して仕上げられる技術の習得を目指す
ショークリップを理解し、その犬の美しさを表現できる高い技術の習得を目指す
到達目標:
個体に応じたグルーミングが安全に行える

授 業 計 画

項目1	全120回	【トリミング実習】・全身カット(ペットカット)時間内に一頭仕上げられる
項目2		【接客実習】・2年生と1年生への指導を行う
項目3		【カラーリングや泥パックの実習】・カラー剤や泥パックを使っのグルーミング実習
項目4		【ショークリップのグルーミング実習】・ショークリップを理解してバランスを考慮して一頭時間内にイ
項目5		【A級ライセンス対策】ショークリップ一頭仕上げまで時間内に行う(プードルのセットアップも含む)
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員はトリマーとしての経験を有す。

学科名・学年	科 目 名	教員氏名
ペットマイスター学科 4年	動物福祉実習Ⅱ	田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数	単 位 数
	120 時間/年	単 位

講義概要:
動物福祉実習Ⅰにおいて知った問題点を改善する。
到達目標:
それぞれの現場に見合う動物福祉を考え、実際に改善しどのような変化があったのか確認する。

授 業 計 画

項目1	全120回	愛玩動物における動物福祉を改善する
項目2		使役動物における動物福祉を改善する
項目3		展示動物における動物福祉を改善する
項目4		産業動物における動物福祉を改善する
項目5		実験動物における動物福祉を改善する
成績評価方法		
・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園にて動物福祉を意識した飼育経験を有す

学科名・学年 ペットマイスター学科 4年	科 目 名 動物飼育実習Ⅳ	教員氏名 田坂翔平(実務経験あり)
教科書名	授業時間数 600 時間/年	単 位 数 単位

講義概要：
動物飼育実習Ⅲに応用力を用いて正確性、迅速性を身に付ける。
後輩に対してこれまでに学んだ知識や経験を伝える。
到達目標：
これまでに学んできた内容を後輩に伝えることが出来る。

授 業 計 画

項目1	第1回～第15回	飼育動物についての説明
項目2	第16回～第30回	各動物種についての説明
項目3	第31回～第45回	飼育する上で意識することの説明
項目4	第46回～第60回	環境エンリッチメントについての説明
成績評価方法 ・試験の結果、上位より優(100～90点)・良(89～80点)・可(79～60点)・不可(59点以下)の4段階をもって表示し、不可を不合格、その他を合格とする。		
備考(テスト方法、必要機材、校外研修、卒研等)		特記事項 担当教員は動物園において様々な動物の飼育を経験している。